琉球大学学術リポジトリ

鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム（下）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2007-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩俣, 繁久, かりまた, しげひさ, Karimata, Shigehisa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2292

鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム（下）

かりまたしげひさ

前号目次

1. 諸鈍方言のリズム＝アクセント的構造
2. 諸鈍方言のフォネーム
2. 1. 母音フォネーム
2. 1. 1. 前舌狭母音／ i ／／ i: ／
2. 1. 2. 中舌狭母音／ ï ／／ ï: ／
2. 1. 3. 奥舌狭母音／ u ／／ u: ／
2. 1. 4. 前舌半広母音／ e ／／ e: ／
2. 1. 5. 中舌半広母音／ ë ／／ ë: ／
2. 1. 6. 奥舌半広母音／ o ／／ o: ／
2. 1. 7. 広母音／ a ／／ a: ／

今号目次

2. 2. 子音フォネーム
2. 2. 1. 調音の方法
2. 2. 2. 調音の位置
2. 2. 3. 声門の状態
2. 2. 4. 閉音節の生成と音節末の子音
2. 2. 5. 口蓋音化と唇音化
2. 2. 5. 1. 口蓋音化した子音フォネーム
2. 2. 5. 2. 唇音化した子音フォネーム
2. 3. 1. 両唇破裂音／ p ／／ b ／
2. 3. 2. 舌先破裂音／ t' ／／ t‘ ／／ d ／
2. 3. 3. 舌先破擦音／ t'ʃ ／／ t'ʃ ／／ dʒ ／
2. 3. 4. 奥舌破裂音／ k' ／／ k' ／／ g ／
2. 3. 5. 声門音／ ʔw ／／ h ／と半母音
2. 3. 6. 舌先摩擦音／ s ／／ ʃ ／
2. 3. 7. 鼻音／ m ／／ n ／
2. 3. 8. 流音／ r ／

2. 2. 子音フォネーム

上村幸雄1978の分類方法にしたがって、すなわち、(1)調音の方法、(2)調音の位置（調音点）、(3)声門の状態（(a)無声音／有声音、(b)喉頭化／非喉頭化）、(4)口蓋音化・唇音化の有無に四つの観点から諸鈍方言の子音フォネームを分類すると、表１のようになる。各欄の左側に口蓋音化や唇音化を特徴としない子音フォネームを、まんなかに口蓋音化を特徴とする子音フォネームを、右側に唇音化を特徴とする子音フォネームを記してある。

（表１）

			両唇	舌先	前舌	奥舌	声門
破裂音	無声	喉頭	p　pj	t'		k'　k'j　k'w	ʔ
		非喉		t'		k'　k'j　k'w	
	有声	非喉	b　bj	d		g　gj　gw	
破擦音	無声	喉頭		t'ʃ			
		非喉		t'ʃ			
	有声	非喉		dʒ			
摩擦音	無声		hw	s　ʃ	hj		h
鼻　音	有声	非喉	m　mj	n　nj			
流　音	有声	非喉		r　rj			
半母音	有声	喉頭	ʔw		ʔj		
		非喉	w		j		

2. 2. 1. 調音の方法

諸鈍方言の子音フォネームは、調音の方法によって破裂音、破擦音、摩擦音、鼻音、流音、半母音にわかれる。破裂音、破擦音、摩擦音は「さまたげ音（噪音 obstruents)」で、鼻音、流音、半母音は「ひびき音（鳴音 sonants)」

である。さまたげ音は声道のどこかの部分で呼気流をさまたげ、そのさまたげによってノイズを生じさせるものである。ひびき音は声道のどこかの部分で特殊な声の共振による効果を生じさせるものである。

調音の方法は標準語の子音フォネームと基本的にはおなじだが、声門破裂音 ʔ を有することが諸鈍方言の子音フォネームの特徴である。

2. 2. 2. 調音の位置

諸鈍方言の子音フォネームは、調音の位置によって両唇音、舌先音、前舌音、奥舌音、声門音にわかれる。この分類は「音声器官のどの部分が調音者として積極的な役割を演ずるか」によるものであるが、積極的に動くことはできないが、可変的な調音者が接している部分として、歯、歯ぐき、うわあご（硬口蓋）、奥うわあご（軟口蓋）などがあり、これのどの部分と調音者が接するかも重要である。これまでの観察から、調音の位置も標準語にくらべて大きな違いはないようである。標準語のばあいを参考にしながら諸鈍方言における子音の調音の位置についてみるとつぎのようになる。

(1)両唇音の p, pj, b, bj, m, mj は上下の唇で調音される。

(2)舌先音のうち、t', t', d, n, nj は舌べり（舌面の先端の部分）と上の歯ぐきの前歯よりの部分から前歯の裏にかけての部分とで調音され、r, rj は舌先と歯ぐきのつきだした部分とで調音される。また、s は舌べりと歯ぐきとのあいだで調音される。ʃ は前舌面のもちあがりによって、s よりも調音の位置がうしろにずれる。t'ʃ, t'ʃ, dʒ も ʃ と同様である。

(3)前舌音の j と ʔj は前舌面と上あご（硬口蓋）のあいだでつくられる。hj も同様であるが、標準語のそれにくらべると、狭めがわずかにひろいようである。

(4)奥舌音の k', k', g は奥舌と奥うわあご（軟口蓋）とのあいだで閉鎖をつくるが、k'j, k'j, gj はそれよりもやや前よりのようである。

(5)声門音の h は開放された声門のあいだをとおるときにでる摩擦音である。標準語のばあい、hw は上下の唇のあいだの狭めによってつくられる両唇摩擦音 [Φ] であるが、諸鈍方言の hw は、標準語にくらべて上下のくち

びるでの狭めがややひろい。hj も標準語の hj [ç] に比べるといくぶんひろい。また、諸鈍方言の hw, hj の呼気は標準語のそれにくらべるといくぶん弱いようである。中舌母音 ï と結合するときの h は、[x] にちかくなるようである。

声門破裂音 ʔ は声門での閉鎖とそれにつづく急激な開放によってつくられる。

2. 2. 3. 声門の状態

諸鈍方言の子音フォネームも、標準語の子音フォネームと同様に声門での声（声帯の振動）の有無によって無声子音と有声子音にわかれる。さまたげ音は無声子音と有声子音にわかれるが、ひびき音はすべて有声子音である。諸鈍方言の場合、そのほかに声帯の緊張と閉鎖の有無によって喉頭化した子音フォネームと喉頭化しない子音フォネームとにわかれる。

喉頭化した子音フォネームは、子音の持続において声門が閉じられ、喉頭全体がもちあがり、くちむろでの調音と同時に、あるいはごくわずかに遅れて喉頭の閉鎖が開放される。喉頭の閉鎖によって肺から口むろへの呼気が妨げたげられるため、喉頭化しない子音フォネームに比べると、口むろでの気圧が高くなく、呼気の流出が少ない。破裂音や破擦音が喉頭化したものを単に無気音ということもある。実際にこの音を発するとき、細く破った紙を口もとにもっていっても、大きくゆれることはない。

この喉頭化／非喉頭化の対立は北琉球諸方言の多くに共通にみられる特徴である。諸鈍方言のばあい、さまたげ音のうち破裂音と破擦音に有声音と無声音の対立があり、ひびき音は有声音のみで、有声／無声の対立がない。さまたげ音における喉頭／非喉頭の対立は無声子音にみられ、ひびき音における喉頭化／非喉頭化の対立は有声子音にみられる。（注１）

諸鈍方言の喉頭化した子音フォネームの系列と喉頭化していない子音フォネームの系列はつぎの表のような対立をしめしている。上の列が喉頭化した子音フォネームの系列である。まんなかの列と下の列が喉頭化していない子音フォネームの系列であるが、まんなかの列は無声子音で、下の列が有声子音で

ある。喉頭化した子音フォネームには有声子音と無声子音がある。

（表２）

ʔ	ʔw	ʔj	k'	t'	k'w	k'j	t'ʃ	p
h	hw	hj	k‘	t‘	k‘w	k‘j	t‘ʃ	—
—	w	j	g	d	gw	gj	dʒ	b

〔k':k‘:g〕〔t':t‘:d〕〔k'w:k‘w:gw〕〔k'j:k'j:gj〕〔t'ʃ:t‘ʃ:dʒ〕の対立は調音の位置、調音の方法が同じで、声門の状態のちがいのみの対立であるが、〔ʔ:h〕〔ʔw:hw:w〕〔ʔj:hj:j〕はかならずしも調音の方法がおなじではない。ʔは声門破裂音（喉頭破裂音ともいう）であり、hは声門摩擦音である。両者は厳密な意味での有声・無声の対立物を欠いている。また、ʔwとʔjは喉頭化した半母音で、wとjが喉頭化しない半母音で、hwとhjは摩擦音である。

摩擦音hは、ふつうの呼吸のときよりわずかにせまく開放された声門によってつくられるが、このとき声道はすでに後続する母音ごとにちがった形をとっている。これに対して声門破裂音ʔは、母音の発音に際しておこる声門の閉鎖とそれにつづく急な開放によってつくられる破裂音であって、そのときの声道の形は後続する母音の形をとっている。両者は調音の方法を異にするが、それぞれが対立物を欠き、おぎないあっているといえる。hjとjとʔj, hwとwとʔwについても同様である。

両唇を調音点とする子音フォネームの系列には喉頭化した無声の破裂音p[p']と喉頭化しない有声の破裂音bがあるが、喉頭化しない無声の破裂音[p‘]はフォネームとしては存在しない。喉頭化した無声の破裂音p[p']は擬声擬態語や外来語、その他の特別な単語や活用形においてのみあらわれるようである。

[p'i:˥p'i:] ひよこの鳴き声

[p'i:˥p'i:] 貧乏なさま

[p'om˥p'uŋ] 水に物の落ちるさま（深い）

[p'am˥p'aŋ] 水に物の落ちるさま（浅い）

[ˋp'aŋ] パン、 [ˋp'eŋ] ペン

摩擦音 s, ʃ、鼻音 m, n, mj, nj、流音 r, rj は喉頭化しないフォネームの系列で、有声子音である。

喉頭化した子音フォネームの系列と喉頭化していない子音フォネームの系列の対立の語例をしめせばつぎのようになる。

ˋk'in	着物
ˋk'in	蹴爪
t'ïˇmï:	爪
ˇt'ï:	手
ˋʔju:	魚
ˇju:	湯
ˇʔwa:	豚
waˇt'a:	綿

また、喉頭化した子音フォネームと喉頭化しない子音フォネームとは語頭ほど明確ではないが、語中でも対立し、つぎのような最小対立の例がみられる。

ʔiˇk'i:	息	(注2)
ʔiˇk'i:	池	

喉頭化したフォネームはつぎのようなばあいにみられる。

① 無声の破裂音、破擦音がせま母音 i, u と結合した音節に由来するばあい。

*ki >	k'iˇnju:	昨日	(注3)
	k'iˇmo:	肝	
	ʔiˇk'i:	息	
	t'ïˇk'ï:	月	
*ku >	k'uˇmo:	雲	
	ˋk'up	首	
	ʔaˋk'up	あくび	
*tʃi >	ˋt'ʃi:	血	
	ʔiˇt'ʃi:	市	
*tsu >	t'ïˇmï:	爪	

t'ïˇk'i:　　月

ただし、*ki, *ku, *tʃi, *tsu に対応する音節でも、その音節の母音が無声化するとき、先行する子音は喉頭化しない子音フォネームであらわれる。

〔k'i̥〕〔k'i̥ˇʃir〕煙管、〔k'i̥ˇt'a:〕北、

〔k'u̥〕〔k'u̥ˇk'i:〕茎、〔k'u̥ˇsa:〕草、〔k'u̥ˇsu:〕糞、〔k'u̥ˇʃi:〕櫛、

〔t'ʃu̥〕〔t'ʃu̥ˇt'u:〕一年

② 語頭の音節のせま母音が無声化して、さらにその音節が脱落したばあい、つぎの音節の子音が喉頭化して、語頭にあらわれる。

ˋt'at　　二つ

ˋt'ar　　二人

ˇt'ït　　一つ

ˇt'ʃur　　一人

ˇt'ʃu:　　人

③ 先行する音節のせま母音が無声化したばあい、つぎの音節の子音が喉頭化する。(②のばあいもこの過程を経たものとおもわれる。語頭の無声化した母音を含む音節でたくさんの呼気が使用されるため、呼気を制御するために喉頭の筋肉がはたらいておこったのではないかと予想される。)(注4)

hi̥ˇk'jos　　挽き臼

t'ʃu̥ˇk'a:　　薬罐

si̥ˇt'a:　　砂糖

hu̥ˋt'on　　布団

④ 先行する音節が閉音節で、その音節末の子音と、それに後続する子音とが同じ音価のばあい、後続する子音が咽頭化する。

mïp˥p'o　　めくら

ˋt'ïk˩k'o　　こぶし

ˋsïk˩k'wa　　西瓜

mat˥t'ap　　蛇の一種

2. 2. 4. 閉音節の生成と音節末の子音

日本語の標準語、および多くの方言において、子音フォネームは音節内での位置、機能にしたがって音節をひらく子音フォネームと音節をとじる子音フォネームとに分類される。琉球列島の多くの方言においても同様である。このばあい、音節を閉じる子音フォネームは、もっぱらＣＶＣ構造の閉音節の末尾にくる子音フォネームで、つまる音（促音）とはねる音（撥音）とよばれるものである。つまる音はさまたげ音で、はねる音は鼻音であるが、それぞれの実際の音価の違いは問題にされず、後続する子音によってその音価が決定される。これは日本語に特徴的にみられるものである。

しかし、諸鈍方言にも次の語例にみられるように、ＣＶＣ構造の音節末にくる子音があるが、標準語とは違ってその音価は後続の子音によって決定されない。

ˋʔit˩ k'a　五日　　k'up˥ t'ʃam　縛った　　sak˥ra　桜

また、語末にも自由にあらわれ、音節をひらく位置にあらわれる子音と同様にその音価のちがいが意味の弁別に重要な役割をになっている。

ˋmuʃ	虫	ˋmït	水	ˋk'up	首
ˋʃum	する	ˋmitʃ	道	ˋk'uk	釘
ˋmum	籾	ˋmun	物	ˋk'utʃ	口

つまり、諸鈍方言の子音フォネームは音節をひらく位置にも、音節をとじる位置にも自由にくることができるのである。これらの事実から諸鈍方言の音節末にあらわれる子音を標準語などと同様に「はねる音」「つまる音」とみなすことはできないだろう。諸鈍方言の子音フォネームには音節をひらく子音フォネームと音節をとじる子音フォネームという音節内での位置や機能にしたがった分類をあえておこなう必要はない。

母音の項でものべたように、諸鈍方言の閉音節構造をもつ単語は母音が無声化したときのみ生成されるのではない。そのことは無声子音 *k, *tʃ, *ts の後の狭母音 i, u だけが消失するのではなく、有声子音 *g, *dʒ, *b, *m, *n, *r の後の狭母音が消失していることからも、容易に推測される。この弱化は、あとでのべるように、prosodic な条件と phonematic な条件との相互作用によっておきるのである。

狭母音 *i, *u の弱化による閉音節の発生、成節的子音の生成という現象は、南琉球方言のなかの宮古諸島方言にも顕著にみられるのだが、宮古諸島方言の閉音節は、摩擦音 s, f, v, 鼻音 m, n などの子音に限定されていて、破裂音や破擦音が閉音節をつくることはない。また、宮古諸島方言の母音の弱化は語頭の音節でもおきていて、／ＣＣＶ／という音節構造を発生させている。諸鈍方言をはじめとする奄美大島南部方言の母音の弱化／閉音節の生成と、宮古諸島方言の母音の弱化／閉音節・成節的子音の生成とはおおきくことなるものである。

音節をとじる位置にくる破裂音や破擦音には，語頭にみられる喉頭化／非喉頭化の対立がみられず，喉頭化／非喉頭化の対立が中和される。また、音節末尾での中和の現象は喉頭化／非喉頭化の対立だけでなく，破裂音と破擦音のばあい、有声／無声の対立も中和される。(注5)

(1)さまたげ音のばあい　（表３）

ki ku gi gu	bi bu	ʃi	su	tʃi dʒi	tsu dzu
k	p	ʃ	s	tʃ	t

(2)ひびき音のばあい　（表４）

ni nu	mi mu	ri ru
n	m	r

有声子音に起源をもつ例

①有声の破裂音

ˇʔok　扇

ˆk'up　首

②有声の破擦音

ˆgutʃˇrja　鯨

ˆk'otʃ　麹

ˋmït　　水

③鼻音

ˋmum　　籾

ˋk'am　　紙

ˇʔin　　犬

④流音

ˋt'ur　　鳥

ˋhir　　昼

無声子音に起源をもつ例

①無声の破裂音

ˋjuk　　雪

ˋsïk　　鋤

②無声の破擦音

ˋk'utʃ　　口

ˋt'at　　二つ

③無声の摩擦音

ˋhaʃ　　橋

ˋhuʃ　　星

ʃiˇwas　　師走

以上の語例のうち、有声音に起源をもつものは、「～も[-m]」という係助詞をともなったとき、[k] ～ [g]、[p] ～ [b]、[tʃ] ～ [dʒ]、[t] ～ [d] という無声子音と有声子音との形態音韻論的交替をし、無声音に起源をもつものは、[k] ～ [k']、[tʃ] ～ [t'ʃ]、[t] ～ [t'] という喉頭化音との形態音韻論的交替をして、閉音節化する以前のふるい形であらわれる。このとき、子音が元の形であらわれるだけでなく、母音も復活してあらわれる。(あるいは、もとのまま保存されているというべきか。)

ˇʔok　→　ʔo:ˇgim　　扇も

ˋjuk　→　juˋk'im　　雪も

ˋhwak　→　hwaˋk'um　　箱も

ˋk'up → k'uˋbim 首も
ˋk'otʃ → k'o:˥dʒim 麹も
ˋk'utʃ → k'uˋt'ʃim 口も
ˋmït → mïˋdïm 水も
ˏt'ït → t'ï:ˏt'ïm 一つも
ˋhuʃ → huˋʃim 星も
ˋt'ur → t'uˋrim 鳥も
ˋhir → hiˋrum 昼も
ˏʔin → ʔiˏnum 犬も
ˋmum → muˋmim 籾も

音節を閉じる位置にくる子音フォネームが単語の途中にあり、その子音の後に有声音がつづくようなばあい、後の有声子音の同化作用（逆行同化 reprogress assimiration）をうけて有声の破裂音のバリアントがあらわれることがある。（注6）

[ˋhik˩ru ～ ˋhig˩ru] 垢
[ˋʔap˩ra ～ ˋʔab˩ra] 油
[sak˥ra ～ sag˥ra] ツツジの一種（桜に対応）

閉音節構造の音節は、単語のリズム＝アクセント的構造とフォネーム的構造の両方の条件の相互作用によってできたものである。閉音節の単語は、「国語アクセント類別対応表」の2拍名詞のうち、1、2類の単語が圧倒的におおく、しかも、単語の末尾の母音がi, uであったものであり、3、4、5類にはごくかぎられた単語でしか閉音節構造がみられない。

諸鈍方言の1、2類の単語は、他のおおくの琉球列島諸方言、とりわけ、北琉球方言におけるばあいと同様に acute accent をもつ。諸鈍方言の acute accent は下降調で、筋肉の弛緩とともにピッチが下降し、呼気流量も減少する。そして、i, u は他の母音にくらべると、声道の音響管としての効率のわるさから相対的におおきい呼気流量によって声帯をつよく振動させるにもかかわらず、相対的にきこえのちいさい、つよさのつよくない音声である。単語アクセントの型、母音 i, u の空気力学的な性質、そして、この母音が語末にくる

というフォネーム構造のみっつの条件があいまって閉音節構造の単語を生じさせたのであろう。2拍以上の名詞についても同様な条件をかんがえるべきであるが、そこにはさらに、諸鈍方言が強音節と弱音節を交互にくみあわせるという単語のリズム＝アクセント的構造が重要な条件となる。

①1、2類の単語で語末が *i, *u のばあい。

ˋʔip　　海老（2-1）

ˋmït　　水（2-1）

ˋʔiʃ　　石（2-2）

ˋnat　　夏（2-2）

②1、2類の単語で語末が *a, *e, *o のばあい。

niˋwa:　　庭（2-1）

k'uˋra:　　鞍（2-2）

hiˋgi:　　髭（2-1）

muˋnï:　　胸（2-2）

nuˋno:　　布（2-1）

ʔuˋt'u:　　音（2-2）

③3、4、5類のばあいは、末尾の母音が i, u でも閉音節にならない。

miˇmi:　　耳（2-3）

haˇri:　　針（2-4）

ʔaˇk'i:　　秋（2-5）

t'ïˇk'i:　　月（2-3）

ʔuˇsï:　　臼（2-4）

haˇru:　　春（2-5）

〔例外〕つぎの語は母音 a, o に対応する母音が脱落して、閉音節をつくっている。

ˋhwak　　箱（2-1）

ˋk'at˩na　　刀

t'aˇbak　　たばこ

［ˋʔir˩k'i］鱗、［t'ïr˥gjo］井戸などの音節をとじる子音 r は、先行する

母音 i と後続する口蓋音化した子音とにはさまれているために、それ自身も口蓋音化していて、[˺ʔiri˹k'i] [t'ïri˺gjo] のように聞こえる。しかし、諸鈍方言には○○○という短い音節だけからなる単語は存在しないという音節＝リズム構造上の理由によって、これを [ri] とみなすことはできない。

また、音節を閉じる位置にくる子音フォネームが単語の末尾にきて、外破するとき、その子音が口蓋音化しない子音のばあい、外破の気音とともに [ï̥] のような音色がきこえ、口蓋音化した子音のばあいは、[i̥] のような音色がきこえてくる。

˺k'up$^{(i)}$（首）、˹hjak$^{(i)}$（百）

˺ʔiʃ$^{(i)}$（石）、˺k'utʃ$^{(i)}$（口）、

当初、この外破するという音声現象を大切にし、それを記述するため、[˺k'up$^{(i)}$] [˺k'utʃ$^{(i)}$] のように無声化した母音を括弧に入れ、子音の右肩に小さく添え書きした。だが、単語のリズム＝アクセント的構造からみると、外破の際に生ずる気音を無声化した母音 [ï̥] [i̥] とみなすことはできない。（注7）

仮にこれを無声化した母音とみなすと、上記の単語は○○、あるいは○○○という短い音節だけからなる単語ということになる。しかし、これらの単語は以下にみるようになが母音を含む開音節の長い音節の単語とおなじ、ながい1音節の単語である。

⬭	⬭○
˺k'up（首）	k'up˺nu（首が）
˺k'ï:（毛）	k'ï:˺nu（毛が）
˹hjak（一つ）	˺hjak˹nu（百が）
˹ja:（家）	˺ja:˹nu（家が）

音節末にくる子音が外破して軽い気音がきこえるのは、諸鈍方言の音節末の子音が喉頭化していないためであろう。（注8）

2. 2. 5. 子音の口蓋音化と唇音化

2. 2. 5. 1. 口蓋音化した子音フォネーム

諸鈍方言の子音フォネームは、標準語の子音フォネームとおなじように口蓋音化を特徴とする子音フォネームの系列と口蓋音化を特徴としない（同時に唇音化も特徴としない子音フォネーム）の系列の対立がある（注9)。諸鈍方言のすべての子音フォネームはこのいずれかに属することになり、パラレルな対立をしめしている。

k'j	k'j	gj	pj	bj	t'ʃ	t'ʃ	dʒ	nj	mj	rj	ʃ	hj	ʔj	j
k'	k'	g	p	b	t'	t'	d	n	m	r	s	h	ʔ	—

母音の項でものべたように、口蓋音化を特徴とする子音フォネームは中舌母音ë, ï と結合しないし、口蓋音化を特徴としない子音フォネームは、前舌母音 e, i と結合しない。それぞれが対立物を欠いている。

bi	—	bje	—	bja	bjo	bju
—	bï	—	bë	ba	bo	bu

しかし、両者は以下のように相互におぎないあっているものとみなすことにする。

(1)	bi	bje	bja	bjo	bju
	bï	bë	ba	bo	bu

（注10）

(2)	ʃi	ʃe	ʃa	ʃo	ʃu
	sï	së	sa	so	su

上の b:bj, s:ʃ のようなパラレルな対立を示すもののほかに、以下のような、不完全な対応関係のものも見られる。（注11）

(3)	gi	—	gja	gjo	gju
	gï	gë	ga	go	gu

(4)	ʔi	ʔje	ʔja	ʔjo	ʔju
	—	—	ʔa	ʔo	ʔu

(4)の／ʔje／は、[ʔje] ～ [ʔe] のような音声的なバリアントがみられるが、母音の音色、舌の硬口蓋へのもちあがりの程度などから、これを拗音節に属するものとする。

(3)(4)のようにどちらか一方に欠けた音節をふくむものには h:hj, k':k'j, k':k'j, n:nj, m:mj, r:rj, p:pj がある。

(5) | t'ʃi t'ʃe t'ʃa t'ʃo t'ʃu |
| t'ï t'ë t'a t'o t'u |

(6) | t'ʃi t'ʃe t'ʃa t'ʃo t'ʃu |
| t'ï t'ë t'a t'o t'u |

(7) | dʒi dʒe dʒa dʒo dʒu |
| dï dë da do du |

以上の(5)(6)(7)は、口蓋音化しない子音フォネームの系列が破裂音で、口蓋音化した子音フォネームの系列が破擦音である。それぞれに対立する口蓋音化した舌先破裂音や口蓋音化しない舌先破擦音がなく、お互いがおぎないあっている。この相互移行の関係は以下の例にみられるような先行する前舌狭母音 i の順行同化作用による口蓋音化現象に確認することができる。(この変化の途中に *tj *dj があったことが容易に推定できる。)

*ito > ʔiˋt'ʃu: (糸)

*hidari > hiˇdʒar (左)

参考 *mino > miˋnjo: (蓑)

口蓋音化した子音フォネームは次のようなばあいにあられわる。

(1)標準語の拗音節に対応してあらわれる。

ˇbjok 病気 ˋk'jo:「dë 兄弟

ˇmjotʃ 名字 ˋhjak 百

ˋmjak 脈 ropˇpjak 六百

(2)前舌狭母音／i／の影響(進行同化)によって後続する直音節が拗音節化してあらわれる(前号の狭母音／i／を参照)

ʔiˋk'ja: イカ mi「k'ja:ˇdīk 三日月

hiˇdʒar 左 ʃiˇrjam 虱

hiˇgjaʃ 東

(3)標準語の強変化動詞(古代日本語四段動詞)に対応する諸鈍方言の動詞の語幹末にあらわれる。

ʔiˆk'jum	行く（カ行四段）
k'uˇgjum	漕ぐ（ガ行四段）
k'urˉʃum	殺す（サ行四段）
muˇt'ʃum	持つ（タ行四段）
ʃiˆnjum	死ぬ（ナ行四段）
k'oˆjum	買う（ハ行四段）
ˆʔjum	言う（ハ行四段）
t'uˇbjum	飛ぶ（バ行四段）
ʔapˉpjum	遊ぶ（バ行四段）
nuˇmjum	飲む（マ行四段）
jiˆrjum	坐る（ラ行四段）
ʔiˆdʒam	行った（カ行四段の過去形）
ˆʃam	した（サ変の過去形）
k'i̥ˆt'ʃam	来た（ラ変の過去形）

2. 2. 5. 2. 唇音化した子音フォネーム

諸鈍方言において唇音化を特徴とする子音フォネームと唇音化を特徴としない子音フォネームの対立は以下のとおりである。

k'	k'	g	h	—	ʔ
k'w	k'w	gw	hw	w	ʔw

以下にしめした(1)〜(4)はいずれも声門、軟口蓋を調音点とする子音フォネームである。(5)は喉頭破裂音ʔと喉頭化した半母音の対立で、(6)は半母音の対立である。

(1)

k'i	—	k'ja	k'jo	k'ju
k'ï	k'ë	k'a	k'o	k'u
k'wï	k'wë	k'wa	—	—

(2)

k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju
k'ï	k'ë	k'a	k'o	k'u
k'wï	k'wë	k'wa	—	—

$$(3)\begin{pmatrix} go & — & gja & gjo & gju \\ gï & gë & ga & go & gu \\ gwï & gwë & gwa & — & — \end{pmatrix}$$

$$(4)\begin{pmatrix} hi & — & hja & hjo & hju \\ hï & hë & ha & ho & hu \\ hwï & hwë & hwa & — & — \end{pmatrix}$$

$$(5)\begin{pmatrix} ʔi & ʔje & ʔja & ʔjo & ʔju \\ — & — & ʔa & ʔo & ʔu \\ ʔwï & ʔwë & ʔwa & — & — \end{pmatrix}$$

$$(6)\begin{pmatrix} ji & je & ja & jo & ju \\ — & — & — & — & — \\ wï & wë & wa & wo & wu \end{pmatrix}$$

問題になるのは(6)のグループのなかの／ji／／wu／／wo／をどう解釈するかである。

／wo／は語例は少ないが、語頭では［wo］、語中では［'o］であらわれる傾向があり、［wo ～ 'o］とゆれている。唇音化を特徴とする子音フォネームと奥舌半広母音oとが結合した音節（合拗音節）とみなすことができる。合拗音節に半広母音／o／を含むのは／w／だけである。

［ˇwo:］王様、［ˆwo:］目上の人に対する返答

［t'ʃaˆʷo:「k'ë］茶請け、［ˆk'jao「ro］ごめんください

／ji／は実際の発音は［'i］で、ゆるやかに声がたちあがり、喉頭化した［ʔi］と対立している。

ʔiˇri:　錐
jiˇri:　襟

喉頭破裂音／ʔ／を有している方言において、［ '］は、その喉頭破裂音と対立する喉頭化していない母音のいりわたりにおけるゆるやかな声だてを表示するもので、「ゼロフォネーム」とよばれるものである。上村幸雄1991にしたがって、首里方言などと同様に／'iˇri:／とすることもできるが、諸鈍方言のばあい、／k'i／／ʃi／などと同様にこの音節が拗音節の系列にふくまれるこ

とから、他の／ja／／je／／jo／／ju／と同様に／ji／と表記する。

／wu／も実際の発音は［'u］で、ゆるやかに声がたちあがり、喉頭化した［ʔu］と対立している。諸鈍方言の母音フォネーム／u／は円唇であり、これと結合する子音フォネームも標準語にくらべてもかなりの程度に唇音化している。

標準語のばあい、／ku／／mu／／hu／を合拗音節にはふくめず、その子音フォネームを唇音化した子音フォネームには分類しないのと同様に、諸鈍方言でも／k'u／／mu／／hu／を合拗音節にはふくめず、／k'／や／m／を唇音化した子音フォネームと認めない。おなじように、［'u］を合拗音節とはみとめず、首里方言のように／'u／とすることも可能である。しかし、それだと下の(7)のようになり、／'u／だけが直音節になり、その音節だけのために／'／というフォネームをみとめなければならない。

(7) $\begin{pmatrix} \text{ji} & \text{je} & \text{ja} & \text{jo} & \text{ju} \\ - & - & - & - & \text{'u} \\ \text{wï} & \text{wë} & \text{wa} & \text{wo} & - \end{pmatrix}$

変則的ではあるが、／wo／の場合と同様に／wu／とする。

摩擦音 h:hw:hj の系列には、例外的に／hwi／という音節がある。これは p → hw → h という琉球方言にみられる唇音性の後退のプロセスで残った残滓であろう。

〔ˇhwi:〕女陰

2. 3. 1. 両唇破裂音／p／／b／

／p／〔p'〕, ／pj／〔p'j〕は無声の両唇破裂音で、喉頭化している。／b／, ／bj／は有声の両唇破裂音である。

$\begin{pmatrix} \text{pï} & \text{pë} & \text{pa} & \text{po} & \text{pu} \\ \text{pi} & \text{pje} & \text{pja} & (\text{pjo}) & \text{pju} \end{pmatrix}$

$\begin{pmatrix} \text{bï} & \text{bë} & \text{ba} & \text{bo} & \text{bu} \\ \text{bi} & (\text{bje}) & \text{bja} & \text{bjo} & \text{bju} \end{pmatrix}$

2. 3. 1. 1. ／p／／pj／

標準語のハ行の子音に対応して諸鈍方言では／h／があられわるため、／p／は語例がすくない。先述したように、諸鈍方言に特徴的にみられる喉頭化・非喉頭化の対立はこの無声の両唇破裂音においてはみとめらない。喉頭化しない〔p'〕が音声的にはみとめられるが、喉頭化した〔p'〕と音韻論的に対立するものではない。(注12)

／pï／　〔ʔap˥p'ï〕遊べ（命令形）

／pë／　〔ʔip˥p'ë〕一杯

／pa／　〔ʔap˥p'am〕遊ばない、〔p'am˥p'aŋ〕水に物のおちるさま、

／po／　〔˩mïp˧p'o〕盲人、〔p'om˥p'uŋ〕水に物のおちるさま、
　　〔ʔap˥p'o〕遊ぼう（さそいかけ形）

／pu／　〔ʔap˥p'una〕遊ぶな、〔p'om˥p'uŋ〕水に物のおちるさま、

／pi／　〔p'i:˥jo:〕雛、〔p'i:˥p'i:〕雛の鳴き声、貧乏なさま、

／pje／〔˩p'en〕ペン（新語）(注13)

／pja／〔ropˬp'jak〕六百、〔hapˬp'jak〕八百、

／pjo／　欠

／pju／〔ʔap˥p'jum〕遊ぶ　　(注14)

／p／　〔˩ʔab˧ra〕油、〔˩k'up〕首、〔˩ʔip〕海老、〔˩rup˩rup〕犬の鳴き声、
　　〔˩ʃip〕歳暮、〔ʔap˥p'jun〕遊ぶ、〔˩mïp˧p'o〕盲人、
　　〔k'up˥t'ʃi〕縛って、〔ʔa˩k'up〕欠伸、〔t'o:ˬk'ip〕とうもろこし、
　　〔ˬk'jup〕細帯、〔˩k'ib˧rja〕葱、〔˩k'ïb˧ra〕森・林、
　　〔˩k'ip˧t'ʃo〕急須

閉音節末にあらわれるpは、後述するように標準語の *bi, *bu に対応している。

〔˩ʔap˧ra〕油、〔˩k'up〕首、〔˩ʔip〕海老

〔naˬsïp〕茄子

また、標準語の／m／に対応してあらわれる／b／が音節をとじる位置にあらわれて、／p／になる。

〔ʔaˬʃip〕汗疹（あせも）、〔k'ïp˥sa〕煙い、〔ʔup˥sam〕重い

〔ˆk'up「ra〕ふくらはぎ（腓［こむら)]）、〔nïp˥rjum〕眠る、

次の語は標準語のハ行子音に対応していて標準語との対応が特殊である。

〔ˇt'ëp〕台風、〔ˇt'op〕豆腐、〔t'op˥ma「mï〕大豆（「豆腐豆」の意）

音節末の／p／〔p'〕は有声子音の前にきたとき、〔b〕であらわれることがある。これは後続の有声子音の影響による逆行同化の現象であろう。

〔ˆt'ïp「rja〕～〔ˆt'ïb「rja〕掌

〔ˆʔip「ri〕～〔ˆʔib「ri〕ものもらい

〔ˆk'up「ra〕～〔ˆk'ub「ra〕ふくらはぎ

〔ˆk'ib「rja〕葱、〔ˆk'ïb「ra〕森・林

2. 3. 1. 2. ／b／／bj／

有声の両唇破裂音／b／の多くは標準語の／b／に対応してあらわれる。

標準語

／ba／－／ba／〔baˇʃa:〕芭蕉、〔suˇba:〕側

／bi／－／bi／〔ʔuˇbi:〕帯

／p／〔ˆk'up〕首、〔ˆʔip〕海老、

／bu／－／bu／〔k'uˇbu:〕昆布、〔ˆbun〕盆

／p／〔ˆʔab「ra〕油

／be／－／bï／〔naˇbï:〕鍋

／bo／－／bu／〔t'ïˆbu:〕壺

標準語のばあい、和語は語頭に濁音がくることがないが、諸鈍方言は多くの琉球諸方言と同様、濁音（／b／）が語頭にたつ。

〔buˇʃi:〕節（関節)、〔buˇra:〕ホラ貝、〔biˇk'i:〕蛙、

〔ˆbaʃ〕くわず芋、

標準語の／m／に対応して／b／があらわれることがある。

〔k'ïˆbuʃ〕煙、〔k'uˇbu:〕蜘蛛、

その他の語例

／bï／〔haˆbï:「ra〕蝶々、〔ˆʔi:「bï〕指、〔nuˇbï:〕喉、

〔më:˥ra「bï〕若い娘、

／bë／〔ʃiˋrja:「bë〕はたけ（皮膚病の一種）

／ba／〔ʃiˇbar〕小便、〔busˇsuk〕仏桑華、〔suˇba:〕唇、
〔k'uˋba:〕浦葵(くば)、〔naˇba:〕茸、〔saˋba:〕草履(ぞうり)

／bo／〔ˇbo:〕棒、〔dïˇbo:〕尾

／bu／〔ˋbur〕鞭、〔ˋbuʃ〕帽子、〔k'uˇbu:〕蜘蛛、〔guˇbu:〕ゴボウ、
〔ʃiˇbur〕冬瓜、〔nïˋbu:「t'u〕ねぶと、〔t'ïˋbuʃ〕膝、
〔gaˇbu:〕瘤（こぶ）、〔ʔaˇbuʃ〕畦、

／bi／〔biˇwa:〕ビワ、〔biˇk'i:〕蛙、〔ˋbin「ta〕頬、

／bje／〔ˋʃim「bje～ˋʃim「be〕カンパチ

／bja／〔ˋbja:〕山羊の鳴き声、〔sanˇbjak〕三百

／bjo／〔ˇbjok〕病気

／bju／〔ʔasˇbjum〕遊ぶ、〔t'uˇbjum〕飛ぶ、〔mus「bjum〕結ぶ、
〔k'aˋbjum〕嗅ぐ

2. 3. 2. 舌先破裂音／t'／／t'／／d／

／t'／と／t'／はいずれも無声の舌先破裂音であるが、前者は喉頭化し、後者は喉頭化していない。／d／は有声の舌先破裂音である。舌先破裂音はいずれも口蓋音化しておらず、口蓋音化した舌先破裂音はない。これに対応するのは舌先の破擦音で、／t'ʃ／／t'ʃ／／dʒ／である。

t'ï	t'ë	t'a	t'o	t'u
t'ʃi	t'ʃe	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu

t'ï	t'ë	t'a	t'o	t'u
t'ʃi	t'ʃe	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu

dï	dë	da	do	du
dʒi	dʒe	dʒa	dʒo	dʒu

2. 3. 2. 1. ／t'／／t'／

諸鈍方言の／t'／／t'／は、基本的には標準語のタ行の子音／t／に対応してあらわれる。標準語のタ行の音節との対応関係はつぎのとおりである。

標準語

／ta／ － ／t‘a／ 〔ˇt‘a:〕田、〔waˇt‘a:〕綿

／ci／ － ／t’ʃi／ 〔ˇt’ʃi:〕血、

〔tʃi〕　／tʃ／ 〔ˆk’utʃ〕口、〔k‘aˆt‘atʃ〕形

／cu／ － ／t’ï／ 〔t’ïˆmï:〕爪、〔t’ïˆdïm〕鼓

〔tsu〕　／t／ 〔hu̯t˥k’a〕二日、〔ˆnat〕夏

／te／ － ／t‘ï／ 〔ˇt‘ï:〕手、〔ˆt‘ïn〕天

／to／ － ／t‘u／ 〔t‘uˇji:〕樋、

／t‘o／ 〔ʔiˇt‘o:〕糸

標準語の「タ」「テ」「ト」の子音／t／に対応して諸鈍方言では喉頭化しない／t‘／があらわれ、／t‘a／／t‘ï／／t‘u／（あるいは／t‘o／）となる。標準語の「ツ」に対応しては／t’ï／あるいは母音が弱化して消失し、音節をとじる／t／があらわれる。諸鈍方言で破擦音 *ts が破裂音化して／t’／に変化したものと推測される。標準語の「チ」に対応する音節の諸鈍方言の子音は喉頭化した／t’ʃi／もしくは母音が弱化して音節をとじる／tʃ／があらわれる。

また、諸鈍方言は語中でも喉頭／非喉頭の対立があり、先にのべたような規則的な対応からすると喉頭化しない子音があらわれるはずのものが先行する音節の母音が無声化したために、喉頭化した子音／t’／があらわれる。

／t‘a／〔hu̯ˆt’a:〕蓋、〔sï̯ˇt’a:〕砂糖、

／t’ï／〔sï̯ˇt’ït〕蘇鉄

／t’o／〔hu̯ˆt’on〕布団、

／t’u／〔k‘u̯ˇt’uʃ〕今年、〔t’ʃuˇt’u:〕一年

さらに、先行する無声化した音節が脱落してつぎのような喉頭化した子音が語頭にあらわれる。

〔ˇt’ït〕一つ、〔ˆt’at〕二つ、〔ˆt’ar〕二人、

音節をとじる／t／は後続の子音の逆行同化によって〔d〕になることもある。

／t／〔ˆmit〕水　　〔mïd˥ga˩mï〕水瓶

〔ˋʔit〕いつ　〔ʔid˥dëm〕いつでも

その他の語例

／t'ï／　〔t'ïr˥gjo〕井戸、〔t'ïˇna:〕網、〔ʔwa:ˇt'ïk〕天気、
〔'ut˥t'ï〕一昨日、〔t'ʃu̯ˇt'ïk〕ひとつき、〔t'ï:ˇt'atʃ〕ついたち、
〔ʔiˇt'ït〕五つ、〔ˋt'ïtʃ〕頂、〔t'ïˋra:〕顔、〔maˋt'ïtʃ〕つむじ、
〔t'ïˇdï:〕唾、〔t'ïˋbuʃ〕膝、〔k'u̯ˇt'ï:〕雄牛、〔t'ïˇno:〕つの、
〔t'ïnˇdar〕蝸牛、〔hu̯ˇt'ï:〕ヨモギ、〔t'ïˇbur〕夕顔の実、
〔t'o:˥t'ïˇbur〕南瓜、

／t'ë／　〔haˋt'ë:˩hë〕畑、

／t'a／　〔ˋt'at〕二つ、〔ˋt'ar〕二人、〔t'aˋk'ër〕二回、〔k'aˇt'a:〕肩、

／t'o／　〔haˇt'o:〕鳩、〔hu̯ˋt'on〕布団、〔ˋʔiʃ˩t'o:˥ban〕蟐、

／t'u／　〔t'ʃu̯ˇt'u:〕一年、〔k'u̯ˇt'uʃ〕今年、

／t'ï／　〔t'ïˇda:〕太陽、〔ʔaˋsa:˩t'ï〕明後日、〔ˋt'ïk˩k'o〕拳、
〔ˋt'ïb˩rja〕掌、〔ʔuˋmu:˩t'ï〕表、〔t'aˇt'ï:〕縦、
〔t'ïk˥k'jum〕つつく、

／t'ë／　〔guˇt'ë:〕体、〔ˇt'ëp〕台風、〔k'a˩t'ë:ˇmun〕おかず、

／t'a／　〔ʔiˇt'a:〕板、〔t'aˇru:〕桶（樽か）、〔k'u˩ga:˥t'a˩na〕小刀、
〔naˇt'a:〕鉈、〔ʔaˇt'ar〕菜園、〔haˋt'atʃ〕二十歳、
〔juˋt'ar〕四人、〔ˋbin˩t'a〕頬、〔waˇt'a:〕腹、〔t'aˇri:〕陰嚢、
〔t'aˋnï:˩ʔwa〕種豚、〔t'an˥ʔju〕いるか、〔gaˇt'a:〕バッタ、
〔t'aˇnï:〕種、〔t'a˩t'a:˥më〕畳、〔t'aˇt'ï:〕縦、

／t'o／　〔ˇt'o:〕平らな所、〔k'un˥nja˩t'o〕ゴキブリ、〔ˋt'o:˩gï〕鍬、
〔t'o:˥t'ïˇbur〕南瓜、〔t'o:ˇk'ip〕トウモロコシ、〔ˋt'o:˩ra〕俵、
〔t'u˩ma:˥t'o〕トマト、〔ʔaˇt'o:〕跡、〔ʔiˋt'o:˩k'o〕従兄弟、

／t'u／　〔miˋt'u:˩k'a〕晦日、〔t'uˇʃi:〕年、〔t'u:˥k'a〕十日、
〔ˋt'u:〕十、〔ˋt'ur〕鳥、〔ʔ˩t'u:˥gë〕顎、〔nïˋbu:˩t'u〕ねぶと、
〔t'u̯ˇho:〕蛸、〔t'uˋnar〕隣、〔t'uˋdʒu:˩t'u〕夫婦、
〔ʔuˋt'u:˩t'u〕年下、〔t'u̯ˇk'i:〕時、〔ˋt'utʃ〕妻、〔wuˋt'u:〕夫

音節をとじる／t／は標準語の「ツ［tsu］」に対応してあらわれる。

〔ˋmit〕三つ、〔ˋjat〕八つ、〔ˋʔit˒k'a〕五日、〔ˋjut〕四つ、

〔ˋmut〕六つ、〔naˇnat〕七つ、〔ˋmat˒gï〕松、〔sïˇt'ït〕蘇鉄、

音節末の／t／は標準語の「ズ（ツ）[dzu]」に対応してもあらわれる。

〔ˋk'it〕傷、〔mïˇmït〕ミミズ、

つぎの語は例外的に「タ[ta]」の母音 *a が消失して、音節をとじる／t／があらわれるものである。

〔ˋk'at˒na〕刀

その他の音節末の／t／

〔gatˇmar〕ガジマル、〔ʔuˇmat〕火、〔sïˇt'ït〕羊、

〔mïd˥ga˒mï〕水瓶、〔ˋwut˒t'ï〕おととい、〔t'at˥nï〕辰年、

〔hut˥k'a〕二日、〔ˋʔit˒k'a〕五日、〔hat˥k'a〕二十日、

〔k'aˇhat〕あご、〔ʃi˒bat˥t'ï˒t'o〕膀胱、〔matˇt'ap〕蛇の種類、

〔t'adˇdëm〕誰でも

2. 3. 2. 2. ／d／

標準語の「ダ」「デ」「ド」の子音／d／に対応して諸鈍方言では／d／があらわれる。また、標準語の「ヅ（ズ）」に対応して諸鈍方言では破裂音化した／dï／があらわれる。標準語の「ヂ（ジ）」に対応する諸鈍方言の音節は／dʒi／である。

標準語－諸鈍方言

／da／－／da／　〔juˋdar〕涎（よだれ）、〔haˇdaʃ〕裸足

／zi／－／dʒi／　〔dʒi:〕地面、〔hiˋdʒi:〕肘（ひぢ）、〔sïˋdʒi:〕筋（すぢ）、

〔dʒi〕　／tʃ／　〔ˋgutʃ˒rja〕鯨、〔ˋk'atʃ〕舵、

／zu／－／dï／　〔mi˒k'ja:ˇdïk〕三日月、

〔dzu〕　／t／　〔ˋmit〕水、

／de／－／dï／　〔ʔuˋdï:〕腕、〔suˋdï:〕袖、

／do／－／du／　〔duˇru:〕泥、〔wuˋdur〕踊り、

／do／　〔k'aˇdo:〕角、〔ˋnus˒do〕盗人

諸鈍方言の／d／は、標準語の「ザ」「ズ」「ゼ」「ゾ」の子音／dz／に対応してもあらわれる。すなわち、標準語のザ行の子音が有声の破擦音／z／〔dz〕であるのに対して、それに対応する諸鈍方言の子音は有声の破裂音／d／なのである。ただし、「ジ」に対応する音節は／dʒi／であり、標準語の「ジャ」「ジュ」「ジョ」のような拗音節の子音に対応する諸鈍方言の子音も／dʒ／であり、これも破裂音化しない。

標準語　　諸鈍方言

／za／ ― ／da／〔ʔa˄da:〕痣、ホクロ、〔k'am˅daʃ〕簪（かんざし）

〔dza〕

／zi／ ― ／dʒi／〔˅dʒi:〕字

〔dʒi〕　／tʃ／〔˅mjotʃ〕名字

／zu／ ― ／dï／〔nï˅dïm〕ねずみ、

〔dzu〕　／t／〔˄k'it〕傷、

／ze／ ― ／dï／〔˅dïŋ〕銭

〔dze〕　／dë／〔k'a˄dë:〕風、

／zo／ ― ／du／〔k'u˅du:〕去年（こぞ）

〔dzo〕　／do／〔ʃin˥do〕心臓

その他の語例

／dï／　〔t'ï˄dï:〕つば、〔ha˅dïk〕いれずみ、〔nï˅dïm〕ねずみ、
〔dï˅bo:〕しっぽ、〔ha˹ri:˅dïk〕罠、〔ʔu˅dï:〕かぶ、
〔dï˅hë:〕竹、〔dï˄hëŋ˹k'wa〕竹の子、〔dï˅sïk〕ススキ、
〔ʔa˅dïm〕きね、〔hu˄dï:〕筆、〔k'ï:˅dïtʃ〕木槌、〔'i˅dï:〕絵、
〔ʔa˅dï:〕十字路、〔˄dïr〕どれ、〔˄da:〕どこ、〔˄dïn〕どの、
〔mi˹k'ja:˥dï˹k'i〕三日月、

／dë／　〔dë:˥k'u˹ni〕大根、〔˄k'jo:˹dë〕兄弟、〔k'utʃ˥k'a˹dë〕東風、
〔niʃ˥k'adë〕西風、〔ma˹niʃ˥k'adë〕北風、〔Φëŋ˥k'a˹dë〕南風、
〔nu:˅dëm〕何でも、〔ʔid˅dëm〕いつでも、〔t'ad˅dëm〕誰でも

／da／　〔na˄da:〕涙、〔sï˅da:〕年上、〔ha˅daʃ〕はだし、
〔ha˄da:˹k'a〕はだか、〔k'ï˹da:˅mun〕けだもの（動物の総称）、

〔ˆʔje:˩da〕とんぼ、〔t'ïnˇdar〕蝸牛、〔ʔaˆdaŋ˩gï〕アダン、
〔juˆda:〕枝、〔k'u˩da:˥ra〕小皿、〔hun˥da˩ra〕大皿、
〔t'ïˇda:〕太陽、〔haˇda:〕肌、〔wu˩nagˇdatʃ〕やもめ（女）、
〔ˆjiŋ˩ga:ˆdatʃ〕やもめ（男）、〔ˆʔje:˩da〕間、〔sïˆda:˩rë〕すだれ

／do／　〔ʔaˆdo:〕踵、〔maˆdo:˩t'ʃa〕間食、〔jaˇdo:〕戸（宿か）、
〔k'iˆdo:〕門（木戸）、〔ʃi˩rju:˥hu˩do〕台所、〔ˆduʃ〕友、
〔him˥mam˩mado〕午前中、〔ˇdok〕道具、

／du／　〔ˆdu:〕体、〔dunˇsar〕月経、〔sanˇduk〕夕方、
〔dumˇbai〕いっぱい

2. 3. 3. 舌先破擦音／t'ʃ／／t'ʃ／／dʒ／

／t'ʃ／と／t'ʃ／は無声の舌先破擦音で、／t'ʃ／は喉頭化していて、／t'ʃ／は喉頭化していない。／dʒ／は有声の舌先破擦音である。／t'ʃ／／t'ʃ／／dʒ／とも口蓋音化を特徴とする子音フォネームである。語例がすくなく、標準語との対応はいまひとつ明確ではないが、つぎのような対応がみられる。

標準語	諸鈍方言
／ci／－／t'ʃi／〔t'ʃi:〕	血、
〔tʃi〕　／tʃ／	〔ˆk'utʃ〕口、〔ˆmitʃ〕道、
／cja／－／t'ʃa／〔t'ʃa:〕	茶、
〔tʃa〕	
／zi／－／dʒi／〔hiˆdʒi:〕	肘、〔sïˇdʒi:〕筋
〔dʒi〕　／tʃ／〔ˆk'atʃ〕	舵、〔ˆk'otʃ〕麹、
／zja／－／dʒa／〔t'ʃa˩dʒa:ˇwan〕	湯呑（茶茶碗）
〔dʒa〕	
／zju／－／dʒu／〔guˇdʒu:〕	五十、〔dʒu:ˇsan〕十三
〔dʒu〕	

また、先行する前舌狭母音／i／の影響（進行同化）による口蓋音化によっても、t'ʃ（←*t）、dʒ（←*d）などの口蓋音化した舌先破擦音が生じた。

〔mi˄t'ʃar〕三人、〔˄t'ʃur〕一人、

〔hi˅dʒar〕左、〔mi˅dʒo:〕溝、

標準語の「ザ」「ゼ」「ズ」「ゾ」の子音の舌先破擦音〔dz〕に対応する諸鈍方言の子音は、破裂音化して〔d〕に変化したために諸鈍方言には口蓋音化しない前舌の破擦音〔dz〕はないようである。(注15)

その他の語例

／tʃ／　〔k'a˅matʃ〕頭、〔k'a˄matʃ˔nju˄k'ï:〕髪、〔˄t'utʃ〕妻、
〔matʃ˅mun〕蛇、〔˄t'ïtʃ〕頂、〔dʒo:˅gutʃ〕門、〔mun˅gutʃ〕門、
〔˄mitʃ〕道、〔ma˄t'ïtʃ〕つむじ、〔˄hatʃ〕蜂、
〔˄k'atʃ˔gï〕麻の一種、〔k'ï:˅dïtʃ〕木槌、〔ʔitʃ˅njutʃ〕一日、
〔t'ï:˅t'atʃ〕ついたち、〔ha˄t'atʃ〕二十歳、

／t'ʃi／　〔˅t'ʃi:〕乳、〔˄t'ʃi:〕来て、〔˅t'ʃi:〕一日、〔t'ʃi˔ma:˕mï〕心臓、
〔t'ï˅t'ʃi:〕杵（槌）、〔më:˕ʃi˔t'ʃi〕額、〔˄ʔat˔t'ʃi〕歩いて、
〔˄t'ʃit˔rja〕綱の一種、〔k'i˅t'ʃi:〕切って、〔k'up˕t'ʃi〕縛って、
〔ʔi˄dʒa:˅t'ʃi〕出して、〔mut˕t'ʃi〕持って、〔ʔu˄t'u:˔t'ʃi〕落して、

／t'ʃe／　欠

／t'ʃa／　〔ʔat˅t'ʃam〕歩いた、〔k'up˕t'ʃam〕縛った、〔˅t'ʃam〕来た、
〔ʔi˔dʒa:˅t'ʃam〕出した、〔ʔu˔t'u:˅t'ʃam〕落とした、
〔mut˕t'ʃa〕持った、〔k'i˅t'ʃam〕切った、〔k'i˔t'ʃa:˅mun〕着物

／t'ʃo／〔˄k'ip˔t'ʃo〕急須、

／t'ʃu／〔˄hut˔t'ʃu〕大人、〔˄jan˔t'ʃu〕使用人、〔˄t'ʃu:〕人、
〔ʃi˔t'ʃu:˅ruk〕ひよめき、

／t'ʃi／〔t'ʃi˔k'ja:˅sam〕近い、

／t'ʃe／　欠

／t'a／　〔˄ho:˔t'ʃa〕包丁、〔ʔu˄ra:˔t'ʃa〕壁、〔˅t'ʃa:〕茶、
〔ma˄do:˔t'ʃa〕間食、〔mi˅t'ʃa:〕土、〔t'ʃa˔dʒa:˅wan〕湯呑み、
〔ʔa˅t'ʃa:〕明日、〔ja˄t'ʃa:˔bo〕独身者、〔ma˄na:˔t'ʃa〕まな板、

／t'ʃo／〔˄gwan˔t'ʃo〕元旦

／t'ʃu／〔mi˅t'ʃu:〕再来年、〔t'ʃu̥˅t'u:〕一年、〔t'ʃu̥˅t'ïk〕一月、

〔t'ʃu̥ˇk'a:〕薬罐、〔miˆt'ʃu:˥naˆt'ï〕おととし、〔t'ʃu̥ˇk'ër〕一回、

／dʒi／ 〔wuˋdʒi:〕叔父、〔dʒiˋma:ˆmï〕落花生、〔ʔiˋdʒi:〕行って、〔ˋʔwï:ˆdʒi〕泳いだ、〔muˇdʒi:〕田芋、〔nï:ˇdʒin〕ニンジン、〔him˥maˇdʒik〕昼食、〔dʒiˋrju:〕炉（いろり）、〔saˇdʒi:〕匙、〔ˇdʒi:〕字、〔dʒiˋgi:〕陸、〔ˇdʒi:〕地、

／dʒe／ 欠

／dʒa／ 〔dʒaˇga:〕ジャガイモ、〔ʔiˋdʒam〕行った、〔ˋhinˆdʒa〕山羊、〔ʔwï:ˇdʒam〕泳いだ、〔gaˇdʒam〕蚊、〔ʔaʃ˥dʒaˆha〕下駄、

／dʒo／ 〔dʒo:ˇgutʃ〕門、〔ja:˥ninˆdʒo〕家族、〔ˋk'inˆdʒo〕近所、〔ˋninˆdʒo〕仲間

／dʒu／ 〔ˇdʒu:〕父、〔dʒu:˥gwadˋdïk〕十月、〔dʒu:ˇʔitʃ〕十一、〔dʒu:ˇnin〕十人、〔ˋdʒu:ˆni〕十二、〔roˋk'u:ˆdʒu〕六十、〔t'uˋdʒu:ˆt'u〕夫婦、〔hiˇdʒur〕稲光、〔guˇdʒu:〕脇の下、〔niˋdʒu:〕二十、〔san˥dʒu:〕三十、〔ʃiˇdʒu:〕四十、〔naˋna:ˆdʒu〕七十、〔haˋt'ʃi:ˆdʒu〕八十、〔k'un˥dʒu〕九十、〔ʔiˇdʒum〕泉

2. 3. 4. 軟口蓋奥舌破裂音／k'／・／k'／・／g／

／k'／と／k'／は、いずれも無声の軟口蓋奥舌破裂音であるが、前者は喉頭化し、後者は喉頭化しておらず、喉頭化の有無によって対立している。／g／は有声の軟口蓋奥舌破裂音である。／k'j／／k'j／／gj／はいずれも口蓋音化した子音フォネームであり、／k'w／／k'w／／gw／は唇音化した子音フォネームである。この軟口蓋奥舌破裂音の系列は口蓋音化した子音フォネーム、唇音化した子音フォネーム、口蓋音化も唇音化もしない子音フォネームのみっつの系列がそろっている。

2. 3. 4. 1. ／k'／・／k'／

標準語のカ行の子音／k／に対応して諸鈍方言では／k'／と／k'／があらわれる。標準語との対応はつぎのとおりである。

標準語　　諸鈍方言

／ka／ － ／k'a／〔k'a˅t'a:〕肩、〔k'a˃dë:〕風、

／ki／ － ／k'i／〔k'i˅mo:〕肝、

－ ／k／〔˃juk〕雪

／ku／ － ／k'u／〔k'u˅mo:〕雲、〔˃k'utʃ〕口

－ ／k／〔sak˥ra〕桜、〔˃mjak〕脈

／ke／ － ／k'ï／〔˃k'ï:〕毛、

／ko／ － ／k'u／〔˃k'uʃ〕腰、〔k'u˅ji:〕声

／k'o／〔ʔi˃t'o:˩k'o〕従兄弟、

標準語のカ、ケ、コに対応する音節では、喉頭化しないk'があらわれ、キ、クに対応する音節では喉頭化したk'があらわれるのが、原則である。

標準語のキ、クに対応して音節をとじる／k／があらわれる。

*ki > k

〔˃k'ak〕垣、〔˃sïk〕犂（すき）、〔˃nuk〕横糸（貫き）

〔sïk˥ma〕隙間、〔˃mak〕牧、〔˃t'ak〕崖（滝）

*ku > k

〔˃hjak〕百、〔˃mak˩ra〕枕、〔sak˥ra〕桜、〔ruk˅nin〕六人

後述するように、ギ、グに対応しても音節をとじる／k／があらわれる。

*gi > k　〔˃k'uk〕釘、〔˃mik〕右

*gu > k　〔˅dok〕道具、

音節をとじる位置にあらわれる子音フォネームは、狭母音 i, u の消失が原因で生じるが、次の語は半広母音 *o の消失によって音節をとじる／k／が生じている稀な例である。

〔t'a˅bak〕煙草、〔˃hwak〕箱

音節をとじる／k／は後続する有声子音の影響（逆行同化）によって／g／になることがある。

〔˃hig˩ru〕垢、〔sag˥ra〕桜、〔rog˥gwad˃dïk〕六月

広母音 *a と半広母音 *e, *o にはさまれた／k'／は／h／に変化する。（注16）

-aka-	>	-aha-				〔na˃ha:〕中
-ake-	>	-ëhë-				〔ha˃t'ë:˩hë〕畑
-ake-	>	-ëhë-	>	-ïhë-		〔dï˃hë:〕竹
-ako-	>	-oho-	>	-uho-		〔t'u˃ho:〕蛸、
-oko-	>	-oho-	>	-uho-		〔k'u˃ho:˩ro〕心
-oke-	>	-ëhë-	>	-ïhë-		〔wï˅hë:〕桶
-eke-	>	-ëhë-	>	-ihi-		〔ji˃hir〕えけり

ただし、つぎの語例のように／k'／であらわれるものもあり、すべてが／h／に変化するわけではない。いかなる条件で／h／に変化するのか、不明である。

〔ju˃k'u:〕横、〔su˃k'u:〕底、〔ha˃da:˩k'a〕裸、

その他の語例

／k'ï／ 〔˃mïŋ˩k'ï〕睫毛、〔k'ï˩da:˅mun〕動物、〔˅k'ï:〕木、
〔k'ï˃buʃ〕煙、〔k'ï:˅dïtʃ〕木槌、〔˃k'ïb˩ra〕森・林、

／k'ë／ 〔t'a˃k'ër〕二回、〔mi˃k'ër〕三回、〔ju˃k'ër〕四回、
〔na˩na:˅k'ër〕七回、〔mu˃k'ër〕六回、〔k'ụ˩hoŋ˅k'ër〕九回、
〔ja˃k'ër〕八回、〔t'u:˥k'ër〕十回、〔mu˃k'ë:〕向かい、
〔k'ë:˥ʃi˩ma〕裏返し

／k'a／ 〔k'a˅matʃ〕頭、〔k'u˩mï:˅k'am〕こめかみ、〔ha˃da:˩k'a〕裸、
〔k'a˅mï:〕亀、甕、〔k'a˃ra:〕芋の葉、〔˃k'atʃ˩gï〕麻の一種、
〔k'a˩t'ï:˅mun〕おかず、〔ju˃k'a:〕床、〔k'a˃wa:˩ra〕瓦、
〔k'a˃ma:〕かまど、〔˃k'ak〕垣、〔k'a˅ma:〕鎌、〔k'a˅sa:〕笠、
〔k'a˅gam〕鏡、〔˃k'at˩na〕刀、〔˃k'am〕紙、〔k'a˅na:〕鉋、
〔˃k'atʃ〕舵、〔k'a˃nï:〕金、金属、〔k'a˅gë:〕影、〔k'am˅nar〕雷、
〔mi˃t'u:˩k'a〕晦日、〔mu˅k'aʃ〕昔、〔mui˥k'a〕六日、
〔˃naŋ˩k'a〕七日、〔jo:˥k'a〕八日、〔k'u˃hoŋ˩k'a〕九日、
〔t'u:˥k'a〕十日、〔k'a˅do:〕かど、

／k'o／ 〔˃mïŋ˩k'o〕喉、〔˅k'o:〕皮、皮膚、〔k'o:˅mor〕コウモリ、
〔˃k'o:˩ʃa〕山芋、〔˃k'otʃ〕麹、徴、〔˅k'o:〕粉、〔˃k'o:〕川、

〔ˇk'o:〕無尽講、〔k'o:˥ri〕氷（新語）

／k'u／ 〔k'u˩mï:ˇk'am〕こめかみ、〔k'uˇmï:〕米、〔ˋk'ub˩ra〕ふくらはぎ、

〔k'u〕 〔k'uˇbu:〕昆布、〔k'uˇbu:〕蜘蛛、〔dë:˥k'u˩nï〕大根、
〔k'uˋmuk〕小麦、〔k'u˩da:˥ra〕小皿、〔k'uˋba:〕蒲葵、
〔k'u˩ga:˥t'a˩na〕小刀、〔k'uˇmor〕窪み・穴、〔k'uˇdu:〕去年、
〔k'uˋt'u:˩ba〕言葉、〔juˋk'u:〕横、〔suˋk'u:〕底、〔ˋk'ur〕これ、
〔k'uˋma:〕ここ、〔ˋk'un〕この、

〔k'ṵ〕 〔k'ṵˇk'i:〕茎、〔k'ṵˇsa:〕草、〔k'ṵˇsu:〕糞、〔k'ṵˇʃi:〕櫛、
〔k'ṵˇt'ï:〕雄牛、〔k'ṵˇʃo:〕胡椒、〔k'ṵˇt'uʃ〕今年、

／k／ 〔ʃi̥˩t'ʃu:ˇruk〕ひよめき、〔ˋʔak〕えら、〔ˋnïk〕いびき、
〔haˇdïk〕いれずみ、〔'uˇnak〕女、〔go:˥muk〕内臓、
〔dïˇsïk〕ススキ、〔busˇsuk〕仏桑華、〔saˇbak〕櫛、
〔ʔwa:ˇt'ïk〕天気、〔juˋmak˩rë〕夕暮、〔ʔa˩ha:ˇt'uk〕夜明け、
〔ˋhik〕親類、〔ˋnok〕虹、〔ˇgëk〕しゃっくり、〔ˋsak〕先、
〔hu˩ru:ˇʃik〕風呂敷、〔hatʃˇmak〕鉢巻き、〔sanˇduk〕夕方、
〔ˇhok〕箒、〔ˋnag˩gwa〕菜っ葉、〔ˋhug˩ru〕袋、

／k'ï／ 欠

／k'ë／ 〔ˋk'ë:〕叔母、〔t'ʃṵˇk'ër〕一回、〔ʔitˇk'ër〕五回、

／k'a／ 〔mok˥k'a〕パパイヤ、〔ˋnïk˩k'a〕葱、〔t'ʃṵˇk'a:〕やかん、
〔si̥ˋk'a:˩ma〕朝、〔hut˥k'a〕二日、〔ˋʔit˩k'a〕五日、
〔hat˥k'a〕二十日、

／k'o／ 〔ˋt'ïk˩k'o〕拳、

／k'u／ 〔ʔaˋk'up〕あくび、〔hṵˇk'u:〕肺臓、〔k'un˥nja˩t'o〕ゴキブリ、
〔ˋk'up〕首、襟、〔si̥ˋk'u:˩bu〕もみがら、〔k'uˇra:〕倉、
〔maˋk'ur〕海人草、〔saˇk'uʃ〕しゃくし、〔ˋk'uk〕釘、
〔k'uˋbum〕窪み、〔roˋk'u:˩dʒu〕六十、〔k'un˥dʒu〕九十、
〔k'uˋnin〕九人、〔ʔuˇk'u:〕奥、〔ʔiˇk'ut〕いくつ、

2. 3. 4. 2. ／g／

／g／は標準語の／g／に対応してあらわれる。

標準語　　諸鈍方言

／ga／ － ／ga／〔ha˩ga:˥ma〕羽釜、

／gi／ － ／gi／〔muˬgi:〕麦、

／k／〔˪k'uk〕釘、〔k'u˪muk〕小麦、

／gu／ － ／gu／〔hu˪gur〕睾丸（「ふぐり」に対応）

／k／〔ˬdok〕道具

／ge／ － ／gï／〔haˬgï:〕はげ

／gë／〔k'aˬgë:〕影、

／go／ － ／gu／〔gu˪ma:〕胡麻

標準語の和語のばあい、語頭に濁音がくることがないが、諸鈍方言は標準語の語頭の清音に対応して濁音（このばあい／g／）がくることがある。

〔gaˬras〕カラス、〔gaˬdʒam〕蚊、〔˪gutʃˬrja〕鯨、〔˪gan〕蟹、〔guˬji:〕杭

その他の語頭にgがあらわれる例

〔ga˩ra:ˬsïp〕カラス蛇、〔gaˬt'a:〕バッタ、〔gatˬmar〕ガジマル、〔gaˬja:〕茅、〔giˬbu:〕しゃこ貝、〔guˬdʒu:〕脇の下、〔gut˥t'o:〕みんな、

その他の語例

／gï／〔˪mat˩gï〕松、〔ju˪na:˩gï〕ユウナ、〔ʔa˪daŋ˩gï〕アダン、〔˪k'wa:˩gï〕桑、〔˪k'atʃ˩gï〕麻の一種、〔˪t'o:˩gï〕鍬、〔ʔa˪gï:〕陸、〔t'ï˪no:˩gï〕手拭い、

／gë／〔ʔu˩t'u:˥gë〕顎、〔ˬgëk〕しゃっくり、〔k'aˬgë:〕影、〔k'aŋ˥gëˬrjum〕考える

／ga／〔k'u˩ga:˥t'a˩na〕小刀、〔gaˬbu:〕瘤、〔ju˩go:˥ga˩sa〕疥癬、〔˪'iŋ˩ga〕男、〔k'uˬga:〕卵、〔dʒaˬga:〕じゃがいも、〔k'aˬgam〕鏡、〔maˬga:〕孫、〔ʔa˩ga:ˬʃum〕あんな、〔nu:˥ga〕何故、

／go／　〔ju˩go:˥ga˩sa〕疥癬、〔go:˥muk〕内臓、〔ʔaˬgo:〕姉、

／gu／　〔guˬbu:〕ごぼう、〔gu˪nin〕五人、〔guˬmi:〕ゴミ、

〔guˬdʒu:〕五十、〔gu˩gwadˬdïk〕五月、〔guˬʃam〕杖、

〔ma˩gur˥wa˩t'a〕腸、〔nïˬgur〕根、〔sï˩gur˥ga˩nï〕針金、

〔daˬgu:〕たんこぶ、〔nïŋ˥gu˩ro〕恋人、〔mar˥gu˩ho〕おむつ、

2. 3. 4. 3. ／k'j／／k'j／／gj／

口蓋音化した奥舌軟口蓋の破裂音／k'j／／k'j／／gj／は次のようなばあいにあらわれる。(注17)

(1)標準語の拗音節に対応する音節にあらわれる。

〔ˬk'ju:〕今日、〔˪k'jo:˩dë〕兄弟、〔˪miŋ˩gjo〕人形

(2)先行する前舌狭母音 *i の影響（進行同化）による口蓋音化によってあらわれる。

〔ʔi˪k'ja:〕イカ、〔t'ʃi˩k'ja:ˬsam〕近い、〔hiˬgjaʃ〕東、

〔ʔiʃˬgjak〕石垣、〔ni˩gja:˥ʔu˩ri〕苦瓜

(3)カ行四段動詞、ガ行四段動詞に対応する諸鈍方言の動詞の語幹末にあらわれる。

〔ʔakˬk'jum〕歩く、〔t'ïk˥k'jum〕つつく、〔ʔi˪k'jum〕行く、

〔k'i˪k'jum〕聞く、〔ʔwï:ˬgjum〕泳ぐ、〔k'uˬgjum〕漕ぐ

その他の語例

／k'i／　〔˪ʔir˩k'i〕ふけ、〔ʔi˪k'i:〕行け（命令形）

〔k'i〕　〔k'i:˥bï〕小指、〔˪k'in〕鶏のけづめ

〔k'i〕　〔k'iˬʃir〕煙管、〔k'iˬt'a:〕北、

／k'je／〔k'o˩k'je:˥k'okk'o〕鶏の鳴き声、

／k'ja／〔mi˩k'ja:˥dï˩k'i〕三日月、〔ʔi˪k'jam〕行かない、

〔˪wa:˩k'ja〕私たち、〔ʔu˪ra:˩k'ja〕あなたたち、

〔˪na:˩k'ja〕あなたたち、

／k'jo／〔˪k'jo:˩dë〕兄弟、

／k'ju／〔ˬk'jum〕来る

／k'i／ 〔ˋk'it〕きず、〔waˇk'i:〕わきのした、〔hi̯ˇk'i:〕背中、
〔ʔiˇk'i:〕息、湯気、〔biˇk'i:〕蛙、〔ˋk'i:˩ja〕セミ、
〔t'o:ˇk'ip〕トウモロコシ、〔ˋk'ib˩rja〕葱、〔k'iˋdo:〕門（木戸）、
〔ˋk'ip˩t'ʃo〕急須、〔ˋk'in〕着物、〔t'ï̯ˇk'i:〕月、〔k'iˇnju:〕昨日、
〔ʔaˇk'i:〕秋、〔t'u̯ˇk'i:〕時、〔ˋk'in˩dʒo〕近所、〔k'ir˥hwë〕霧、
／k'ja／ 〔ʔi˩k'jas˥sa〕いくら、〔ʔi˩k'ja:˥ʃi〕どうして、
〔ʔakˇk'jam〕歩かない、〔ʔik˥k'jaˇsam〕短い、
／k'jo／ 〔hi̯ˇk'jos〕挽き臼、〔ˋgak˩k'jo〕ラッキョウ、
／k'ju／ 〔ˇk'jup〕細帯、〔ʔakˇk'jum〕歩く、〔t'ïk˥k'jum〕つつく、
〔hu̯ˇk'jum〕吹く、〔haˇk'jum〕掃く、
／gi／ 〔hiˋgi:〕ひげ、〔haˇgi:〕足、〔wuˇgi:〕砂糖黍、〔muˇgi:〕麦、
〔ʔu˩hu:˥mu˩gi〕大麦、〔niˋgi:〕棘、〔ˋmiʃ˩gi〕しゃもじ、
〔giˇhwa:〕簪、〔no˩ho:ˇgir〕鋸、〔ˋgin˩no〕金槌、
〔dʒiˇgi:〕陸、〔buˋgin˩ʃa〕金持ち、
／gja／ 〔hiˇgjaʃ〕東、〔ʔiʃˇgjak〕石垣、〔ni˩gja:˥ʔu˩ri〕苦瓜、
〔ʔiˇgja:〕どもり、
／gjo／ 〔t'ir˥gjo〕井戸、〔ˋmiŋ˩gjo〕人形、
／gju／ 〔në:ˇgjum〕びっこをひく、〔ʔwï:ˇgjum〕泳ぐ、〔k'uˇgjum〕漕ぐ

2. 3. 4. 4. ／k'w／／k'w／／gw／

唇音化した奥舌軟口蓋の破裂音の語例は以下のとおりである。

／k'wï／ 〔k'wï:ˇjum〕越える、
／k'wë／ 〔ˋk'wë:〕飼え、〔ˇk'wë:〕買え、
／k'wa／ 欠
／k'wï／ 〔ˋk'wï:〕閉めろ（命令形）、〔ˇk'wï:〕噛め
／k'wë／ 〔ˇk'wë:〕肥料、
／k'wa／ 〔k'waˇʃi:〕菓子、〔sui˥k'wa〕西瓜、〔wuik˥k'wa〕甥、
〔ˋmïk˩k'wa〕姪、〔ˋk'wa:〕子、〔dïˋhëŋ˩k'wa〕竹の子、
／gwï／ 欠

／gwë／〔ʔusëgwë〕追肥（上村資料）

／gwa／〔ʃo:˥gwad˦dïk〕一月、〔ni˥gwad˦dïk〕二月、
〔saŋ˥gwad˦dïk〕三月、〔ʃi˥gwad˦dïk〕四月、
〔go˥gwad˦dïk〕五月、〔ruk˥gwad˦dïk〕六月、
〔ʃitʃ˥gwad˦dïk〕七月、〔hatʃ˥gwad˦dïk〕八月、
〔k'u˥gwad˦dïk〕九月、〔dʒu:˥gwad˦dïk〕十月、

2. 3. 5. 声門音および半母音

諸鈍方言の声門音には声門摩擦音／h／と声門破裂音／ʔ／（喉頭破裂音ともいう）とがあり、半母音には喉頭化した／ʔw／／ʔj／喉頭化していない／w／／j／がある。

2. 3. 5. 1. 声門破裂音／ʔ／と喉頭音化半母音／ʔw／／ʔj／

喉頭破裂音／ʔ／は、他の子音フォネームと同様に母音フォネームのまえにくるものである。この喉頭破裂音／ʔ／は、琉球方言、とりわけ北琉球方言に特徴的なフォネームである(注18)。

標準語のばあい語頭に母音がくるとき、この喉頭破裂音ʔがあらわれることがあるが、音韻論的な単位とはみなされないが、琉球方言のばあい単語、および単語の文法的な形を他の単語、および他の文法的な形から区別するための音韻論的な単位として機能する。すなわち、フォネームとして存在するのである。

／ʔ／は標準語のア行の音節に対応する諸鈍方言の音節の子音としてあらわれる。ただし、標準語の「エ」には／ʔi／に対応するものと／'i／に対応するものとがある。前者が古代日本語のア行の「エ」に、後者がヤ行の「エ」に対応する。これは母音の項でのべたとおりである。

標準語

／a／－／ʔa／〔ʔa˦mi:〕網、〔ʔa˦mï:〕雨、

／i／－／ʔi／〔˦ʔiʃ〕石、〔ʔi˦k'i:〕息、

／u／－／ʔu／〔˦ʔuʃ〕牛、〔ʔu˦mi:〕海

／e／ － ／ʔi／〔ˋʔip〕海老、〔ʔi˹ra:ˇbjum〕選ぶ

／ji／〔ˋji:〕柄、

／o／ － ／ʔu／〔ʔuˋt'u:〕音、

／ʔe／は口蓋音化した系列（拗音節）に属し、[ʔje ～ ʔe] のようにゆれている。

ʔï, ʔë という音節は存在しないようである。この音節のあらわれることが予想される音環境をもった単語はあるが、つぎのようにあらわれる。

① *ai ＞ ë: が予想されるが、／ʔe:／, ／je:／になっている。

ˇʔje:　藍

ˋʔje:˹da　間、トンボ

muˋje:　模合（無尽講）

② *e ＞ ï が予想されるが、／ʔi／や／ji／があらわれる。

ˋʔip　海老、

ʔi˹ra:ˇbjum　選ぶ

jiˇdï　絵（絵図に対応）

ˋji:　柄、

／ʔj／／ʔw／は語頭の母音が脱落して生じているようである。

*iwo ＞ *ʔiju ＞ ˇʔju:（魚）

*iwaja ＞ ʔiwaja ＞ ˋʔjan˹ja（洞穴、岩屋）

*uwe ＞ ʔuwë ＞ ˋʔwï:（上）

*uwabe ＞ ʔuwabë ＞ ʔwa:˺bë（表面、上辺）

その他の語例

／ʔi／　〔ˋʔir˹k'i〕うろこ、〔ʔiˇgja:〕どもり、〔ˋʔi:˹bï〕指、
〔ˋʔib˹ri〕ものもらい、〔ˇʔin〕犬、〔ˋʔip〕海老、
〔ʔiˇk'ja:〕イカ、〔ʔiˇni:〕稲、〔ʔiˇno:〕内海、〔ʔiˇri:〕錐、
〔ʔiˇt'a:〕板、〔ʔiˇdʒum〕泉、〔ʔitˇnjutʃ〕一日、〔ʔiˇt'ït〕五つ、
〔dʒu:ˇʔitʃ〕十一、〔ʔiˋt'o:˹k'o〕いとこ、〔ʔiˋhwë:〕位牌、

〔ʔi˹rï:˺sak〕移住者

／ʔe／ 〔˺ʔje:˹da〕間、〔˺ʔje:˹da〕トンボ、

／ʔa／ 〔ʔa˺k'up〕あくび、〔ʔa˺da:〕あざ、ほくろ、〔ʔa˺sï:〕汗、
〔˺ʔan〕蟻、〔˺ʔak〕えら、〔ʔa˺do:〕かかと、
〔ʔa˺daŋ˹gï〕アダン、〔˺ʔab˹ra〕油、〔ʔa˺sï:〕朝ごはん、
〔ʔa˺dïm〕杵、〔ʔaʃ˺dʒa˹ha〕下駄、〔ʔa˺mi:〕網、〔ʔa˺buʃ〕畦、
〔ʔa˺t'ar〕菜園、〔ʔa˺gï:〕陸、〔ʔa˺t'ʃa:〕明日、
〔ʔa˺sa:˹t'ï〕あさって、〔ʔa˹ha:˺t'uk〕夜明け（暁）、
〔ʔa˺k'i:〕秋、〔ʔa˺go:〕姉、〔ʔa˺nï:〕姉（呼称）、〔ʔa˺njo:〕兄、
〔ʔa˺t'o:〕跡、〔ʔa˺dï:〕十字路、

／ʔo／ 〔˺ʔo:〕粟、〔˺ʔo:˹sa〕あおさ、〔˺ʔo:〕泡、

／ʔu／ 〔ʔu˹t'u:˺gë〕顎、〔ʔu˺ru:〕のど、〔ʔu˺dï:〕腕、〔ʔu˺mi:〕膿、
〔˺ʔuʃ〕牛、〔ʔu˺ma:〕馬、〔ʔu˺mu:〕芋（里芋）、
〔ʔu˹hu:˺mu˹gi〕大麦、〔ʔu˺ri:〕胡瓜、〔ʔu˺di:〕蕪(かぶ)、
〔ʔu˺mat〕火、〔ʔu˺sï:〕臼、〔ʔu˺mi:〕海、〔ʔu˺ʃu:〕海水、
〔ʔu˺ru:〕珊瑚の砕けた小石、〔ʔu˺t'u:˹t'u〕弟、〔ʔu˺ja:〕親、
〔ʔu˺k'u:〕奥、〔ʔu˺ra:〕うら、〔ʔu˺mu:˹t'ï〕おもて、
〔ni˹gja:˺ʔu˹ri〕苦瓜、

／ʔja／ 〔˺ʔjam〕言わない、〔˺ʔjan˹ja〕洞穴、

／ʔjo／ 〔˺ʔjo:〕言おう、

／ʔju／ 〔˺ʔju:〕魚、〔˺ʔjum〕言う、〔˺ʔju:˹ʃa〕唖、〔t'an˺ʔju〕いるか、

／ʔwï／ 〔˺ʔwï:〕上、〔ʔwï:˺sïba〕上唇、〔ʔwï:˺gjum〕泳ぐ、
〔ʔwï:˺nut'ʃu〕ねずみの異称、

／ʔwë／ 欠

／ʔwa／ 〔˺ʔwa:〕豚、〔ʔwa:˺t'ïk〕天気、〔ʔwa:˺bë〕表面、

2. 3. 5. 2. 声門摩擦音／h／／hj／／hw／

沖縄本島北部、与論島、宮古、八重山の諸方言に残存している古代ハ行子音のpが諸鈍方言では摩擦音／h／に変化していて、標準語の語頭の／h／に対

応して諸鈍方言でも／h／があらわれる。

標準語　　諸鈍方言

／ha／－／ha／　〔haˇna:〕鼻、花、〔haˇgï:〕禿

　　／hwa／〔ˋhwak〕箱、〔ˋhwa:〕葉、

／hi／－／hi／　〔hiˇgjaʃ〕東、〔hiˇdʒar〕左、

／hu／－／hu／　〔huˇnï:〕船、

／he／－／hwï／〔hwïˇra:〕箆、〔ˇhwï:〕屁、

／ho／－／hu／　〔huˇnï:〕骨、〔ˋhuʃ〕星、

標準語の／ha／に対して諸鈍方言で／ha／と／hwa／が対応するのだが、両者のあらわれ方は、人によっても単語によってもことなるようであるが、年寄りほど／hwa／のあらわれる頻度がたかくなるようである。これまで得られた資料でそのあらわれ方をみると以下のようになる。この／hw～h／の変異は広母音／a／と結合するときにかぎられるようである。

(1)／ha／だけ

〔haˇna:〕鼻、〔haˇgï:〕禿、〔haˇgi:〕足、〔haˋda:「k'a〕裸、

〔haˇdaʃ〕裸足、〔haˇda:〕肌、〔haˇdïk〕刺青、〔haˋnï:〕羽、

〔haˇt'o:〕鳩、〔ˋhatʃ〕蜂、〔haˋbï:「ra〕蝶、〔haˇnus〕甘薯、

〔haˇna:〕花、〔haˇna:〕端、〔ha「ga:¬ma〕羽釜、〔hat¬k'a〕二十日、

〔haˋt'ë:「hë〕畑、〔har¬ga「nï〕針金、〔haˇru:〕畑、〔haˇsam〕鋏、

〔haˇma:〕浜　〔haˇru:〕春、〔haˇt'ʃi:〕鉢、〔haˋt'atʃ〕二十歳、

〔hatʃˇnin〕八人、〔hamˇbun〕半分、〔ˋhan「ni〕祖母、〔haˇrutʃ〕親戚、

〔hatʃˇmak〕鉢巻き

(2)／ha～hwa／とゆれるもの

〔hwaˇrja:〕柱、〔hwaˇʃi:〕箸、〔hwaˇri:〕針、〔ˋhwaʃ〕橋、

(3)／hwa／だけ

〔ˇhwa:〕歯、〔hwa:¬jasë〕葉野菜、〔ˋhwa:〕葉、〔ˇhwa:〕刃、

〔giˇhwa:〕簪、〔ˋhwak〕箱、

(1)のグループの単語でも「／hwa～／ともいいませんか」と聞くと、「そうも言う」という返事がかえってくることがあるし、(3)のグループの単語でも、

より若い世代（60代から70代）では／ha ～ ／があらわれることがある。

例外的に／hwi／という音節がある。これは p → hw → h という琉球方言にみられる唇音性の後退のプロセスで残った残滓であろう。これまでの調査では以下の１語だけにみられた。

[ˇhwi:] 女陰

古代日本語にみられる語中のハ行の子音は、ハ行転呼音とよばれる音韻変化によって、子音／ｈ／は／ｗ／に変化し、さらに母音aを後続させるばあいをのぞき、脱落して、母音連続をつくりだすのだが、諸鈍方言ではさらにつぎのように変化している。

	古代日本語	標準語	諸鈍方言
「は」	粟（あは）	あわ	ˇʔo:
	俵（たはら）	たわら	ˆt'o:˩ ra
	皮（かは）	かわ	ˇk'o:
	縄（なは）	なわ	ˇno:
「ひ」	間（あひだ）	あいだ	ˆʔje:˩ da
	腕（かひな）	かいな	ˆk'ë:˩ na
「へ」	前（まへ）	まえ	ˇmë:
	蝿（はへ）	はえ	ˇΦë:
	上（うへ）	うえ	ˆʔwï:
	苗（なへ）	なえ	ˇnë:
「ふ」	扇（あふぎ）	おうぎ	ˇʔok
	今日（けふ）	きょう	ˇk'ju:

広母音と半広母音にはさまれた *k' が諸鈍方言で／ｈ／に変化する。

*-aka- ＞ -aha-

〔t'aˆha:˩ sa〕高さ、〔ʔaˆha:˩ sa〕赤さ、〔naˆha:˩ ʔi:˥ bï〕中指、〔maˇhar〕椀、〔juˆna:˩ ha〕夜中、〔naˆha:˩ ra〕半分、〔ʔaʃ˥ dʒa˩ ha〕下駄（足高か）、〔naˆha:〕中、〔ʔa˩ ha:ˇt'uk〕暁、〔wa˩ ha:ˇsam〕若い、〔sa˩ ha:˥ʃima〕逆さま、

*-ake- ＞ -ëhë-

〔së˩hë:ˬrjum〕裂ける、〔ha˪t'ë:˩hë〕畑、

*-ake- ＞ -ëhë- ＞ -ïhë-

〔dï˪hë:〕竹、〔sï˪hë:〕酒、

*-ake- ＞ -ëhë- ＞ -ïhë- ＞ -ihë-

〔ji˩hë:ˬrjum〕焼ける、〔ju:˥ji˩hë〕夕焼、〔ʔa˩sa:˥ji˩hë〕朝焼け、

*-ako- ＞ -oho- ＞ -uho-

〔t'u˪ho:〕蛸、〔juˬho:〕櫂（いやこ？）

*-oko- ＞ -oho- ＞ -uho-

〔k'u˪ho:˩ro〕心、〔k'u˩ho:ˬnot〕九つ、〔k'u˪hoŋ˩k'a〕九日、

〔muˬho:〕婿（これは「モコ」にさかのぼる）

〔mar˥gu˩ho〕おむつ（←沖縄方言〔kako:〕）

*-oke- ＞ -ëhë-

〔bot˥wë˩hë〕坊主桶（把手のない桶）

*-oke- ＞ -ëhë- ＞ -ïhë-

〔wïˬhë:〕桶

*-eke- ＞ -ïhï- ＞ -ihi-

〔ji˪hir〕ゑけり（女性の側から見た兄弟）

*-oka- ＞ -uhwa-

〔ju˪hwa:〕八日

このとき、／h／の両側でおきる母音の同化（遠隔同化）については母音／ë／および／o／の項でのべたとおりである。(注19)

／hi／　〔˪hir〕昼、〔˪hik˩ru〕垢、〔hi˪gi:〕髭、〔˪hik〕親類、

〔hi〕　〔hi˪dʒi:〕肘、〔hiˬdʒur〕稲光、

〔hi̯〕　〔hi̯ˬk'i:〕背中、〔hi̯ˬk'jos〕挽き臼、〔hi̯ˬʃi:〕干瀬、

／hï／　〔ʔa˩sa:˥ji˩hï〕朝焼け、〔ju:˥ji˩hï〕夕焼け、

／hë／　〔˪ʃe:˩hë〕咳、〔ji˩hë:ˬrjum〕焼ける

／ha／　〔˪hatʃ〕蜂、〔˪haʃ〕橋、〔haˬru:〕春、〔hat˥k'a〕二十日、

〔ha˩ga:˥ma〕はがま、〔ha˨˩gï:〕禿、〔ha˨˩gi:〕足、
〔ha˧t'atʃ〕二十歳、〔ha˨˩dïk〕刺青、〔ha˨˩daʃ〕裸足、
〔ha˧da:˩k'a〕裸、〔ha˨˩da:〕肌、〔hap˨˩pjak〕八百、
〔ha˧bï:˩ra〕蝶々、〔ha˧t'ʃi:˩dʒu〕八十、〔ha˨˩sam〕鋏、
〔ha˨˩nus〕サツマイモ、〔ha˨˩ʃi:〕お箸、〔ha˧nï:〕羽、
〔˧han˩ni〕祖母、〔hatʃ˨˩mak〕鉢巻き、〔k'a˨˩hat〕顎、

/ho/ 〔˧ho:˩t'ʃa〕包丁、

/hu/ 〔˧huʃ〕星、〔ʔu˩hu:˥mu˩gi〕大麦、〔˧huk˩ru〕袋、

〔hu〕 〔hut˥k'a〕二日、〔hu˧gur〕睾丸、〔ʔu˧hu:˩sa〕大きい、
〔hu˧su:〕へそ、〔hu˩ru:˨˩ʃik〕風呂敷、〔˧huʃ˩ʃu〕祖父、
〔hu˨˩nï:〕骨、〔hu˨˩hum〕埃、

〔hu̥〕 〔hu̥˧t'a:〕蓋、〔hu̥˨˩k'u:〕肺、〔hu̥˨˩t'ï:〕よもぎ、〔hu̥˧t'oŋ〕布団、

/hja/ 〔˧hjak〕百、〔hja:˥hjan〕毒蛇の一種

/hjo/ 〔hjo:˨˩t'an〕ひょうたん、〔hjo:˥ʃik〕拍子木、

/hju/ 〔˧hjur〕日和、

/hwi/ 〔˧hwi:〕女陰、

/hwï/ 〔˨˩hwï:〕屁、〔ʔu˩hwï:˨˩jum〕起きる

/hwë/ 〔˧hwë:〕石灰、〔ʔi˧hwë:〕位牌、

/hwa/ 〔˧hwak〕箱、〔gi˨˩hwa:〕簪、〔hwa:˥jasë〕葉野菜、
〔ju˧hwa:〕四日、〔ju˩hwa:˥na˩t'ï〕一昨々日、

2.3.5.3. 半母音／w／／j／

／w／は古代日本語のワ行の音節のア段、オ段の音節の子音に、／j／はヤ行の子音、および古代日本語のワ行のイ段、エ段の音節の子音に対応してあらわれる。

/wa/－/wa/ 〔wa˨˩ra:〕藁、〔wa˨˩t'a:〕綿

/wi/－/ji/ 〔'i˧rjum〕坐る、

/we/－/ji/ 〔'i˨˩dï:〕絵図、

/wo/－/wu/ 〔˨˩'un〕斧、〔'u˧dur〕踊り

／ja／－／ja／〔jaˇma:〕山、〔ˆjat〕八つ
／ju／－／ju／〔ˇju:〕湯、〔ˆjuk〕雪、
／jo／－／ju／〔juˇmï:〕嫁、〔juˆdar〕よだれ

／ji／　〔ˆ'i:〕柄、〔'i˩hë:ˇrjum〕焼ける、〔ˆ'i:˩rjo〕ひも、
〔ˆ'iŋ˩ga〕おとこ、〔ʃoˇ'i:〕醤油、〔t'uˇ'i:〕樋（とい）、
〔k'uˇ'i:〕声、〔guˇ'i:〕杭、〔ʔa˩sa:˥'i˩hï〕朝焼け、
〔ju:˥'i˩hï〕夕焼け、〔'iˆhir〕兄弟、〔'i:˥gu˩rë〕酔っぱらい、
〔'i:ˇwak〕ユイ（結）、
／je／　〔muˆje:〕模合（無尽講）、
／ja／　〔ˆjat〕八つ、〔ˆjak˩më〕兄、〔ˇja:〕家、〔jaˆk'ër〕八回、
〔jaˇmor〕やもり、〔jaˇdo:〕戸（宿か）、〔ˆjan˩t'ʃu〕使用人、
〔ja:˥nin˩dʒo〕家族、〔ˆjam˩më〕庭、〔ʔuˇja:〕親、
〔hwa:˥jasë〕葉野菜、〔ˆjam˩më〕庭、〔jaˆt'ʃa:˩bo〕独身者、
〔ˆk'i:˩ja〕セミ、〔gaˆja:〕茅、
／jo／　〔ˆjo:˩nï〕夜、〔maˇjo:〕眉、〔pi:˥jo:〕ひよこ、
／ju／　〔ju:˥ji˩hë〕夕焼、〔juˆhwa:〕四日、〔ˆjut〕四つ、
〔juˆna:˩ha〕夜中、〔juˇho:〕櫂、〔juˆdar〕よだれ、〔juˆk'u:〕横、
〔juˆk'ër〕四回、〔juˆk'a:〕床、〔juˇgur〕豚の餌箱、
〔juˆna:˩gï〕ユウナ：〔juˆt'ar〕四人、〔ju˩go:˥ga˩sa〕疥癬、
／wï／　〔wïˇhë:〕桶、
／wë／　〔bot˥wë˩hë〕坊主桶（把手のない桶）
／wa／　〔waˇt'a:〕腹、〔waˇk'i:〕脇、〔niˆwa:〕庭、〔ʃi˩mï:˥na˩wa〕メ縄、
〔ʃiˇwas〕師走、〔biˇwa:〕枇杷、〔ʃiˇwa:〕皺、
〔t'ʃa˩dʒa:ˇwan〕湯呑、〔kaˆwa:˩ra〕瓦（新語か）、
〔waˇru:〕たくさん、〔waˆra:˩bï〕子供、〔wa˩ha:ˇsar〕若い、
／wo／　〔wo ～ o〕〔t'ʃaˆwo:˩k'ë〕茶請け、〔ˆk'jao˩ro〕ごめんください
／wu／　〔'uˆgi:〕さとうきび、〔'ut˥t'ï〕おととい、〔'uˇnak〕おんな、
〔'uˆt'u:〕夫、〔'uˆnar〕姉妹、〔'uˆdʒi:〕叔父、〔'uˆba:〕叔母、

〔'uik˥k'wa〕甥、

2.3.6. 舌先摩擦音／s／／ʃ／

／s／は舌先摩擦音で、無声音である。／ʃ／はその口蓋音化した子音である。／s／は標準語のサ行の子音に対応してあらわれる。

標準語　　諸鈍方言

／sa／－／sa／〔sak˥ra〕桜、

／si／－／ʃi／〔ʃiˇma:〕島、

／ʃ／〔ˆ?uʃ〕牛、〔ˆmuʃ〕虫、

／su／－／sï／〔sïˇsï:〕煤、〔sïˇnï:〕脛、

／s／〔gaˇras〕烏、〔ʃiˇwas〕師走

／se／－／sï／〔?aˇsï:〕汗、

／so／－／su／〔suˆdï:〕袖、〔miˇsu:〕味噌

／sï／〔ˇsï:〕酢、〔ˆsï:〕巣、〔sïˇda:〕年上、〔ga˩ra:ˇsïp〕ガラス蛇、
〔sïˇdʒi:〕すじ、〔?aˇsïp〕あせも、〔sï˩gaˇmït〕唾、
〔sïk˥ma〕すきま、〔sïˆk'u:˩bu〕もみ殻、〔naˇsïp〕茄子、
〔dïˇsïk〕ススキ、〔sïˇhë:〕酒、〔sïˇt'a:〕砂糖、〔sïˇt'it〕ソテツ、
〔?aˇsï:〕朝食、〔?uˇsï:〕臼、〔ˆsïk〕犂、〔ˇsï:〕鞘、〔k'aˇsï:〕綛、
〔ˆsïm〕隅、〔sïˆna:〕砂、〔sïˆk'a:˩ma〕早朝、〔sïˇt'u:〕外、

／së／〔hwa:˥jasë〕葉野菜、〔nïˇsë:〕若者、

／sa／〔?i˩k'jas˥sa〕いくら、〔?uˆhu:˩sa〕大きい、〔ˆ?in˩sa〕小さい、
〔dunˇsar〕月経、〔saˇru:〕猿、〔k'uˇsa:〕草、〔saˇk'uʃ〕しゃくし、
〔ˆ?o:˩sa〕あおさ、〔saˇdʒi:〕さじ、〔haˇsam〕はさみ、
〔saˇbak〕ときぐし、〔saˆba:〕ぞうり、〔k'aˇsa:〕笠、〔saˇk'u:〕谷、
〔ˆsak〕先、〔?aˆsa:˩t'ï〕あさって、〔sanˇduk〕夕方、
〔?a˩sa:˥ji˩hï〕朝焼け、〔sa˩ha:˥ʃima〕逆さま、

／so／〔ˇso:〕竿、〔ˆnë:˩so〕糸、〔ˆso:˩k'ï˥bu˩nï〕肋骨、

／su／〔suˇba:〕唇、〔roˇsuk〕ろうそく、〔ʃa:˥suba〕下唇、
〔?wa:˥suba〕下唇、〔huˆsu:〕へそ、〔k'uˇsu:〕大便、

〔busˇsuk〕仏桑華、〔miˇsu:〕味噌、〔suˇba:〕側、〔suˇk'u:〕底、

／s／〔haˇnus〕サツマイモ、〔gaˇras〕カラス、〔busˇsuk〕仏桑華、
〔hi̯ˇk'jos〕挽き臼、〔ʃiˇwas〕師走、〔ˋnus˩do〕盗人、

／ʃi／〔ʃiˇrjam〕虱、〔ʃiˇwa:〕しわ、〔ʃiˇnjum〕死ぬ、〔ʃiˇbar〕小便、
〔ʃiˇma:〕島、〔ʃiˋʃi:〕肉、〔buˇʃi:〕節、関節、〔ˋʃim˩bje〕カンパチ、
〔ʃi̯˩t'ʃu:ˇruk〕ひよめき、〔ʃiˇrjum〕脂身、〔ʃiˋrja:˩bë〕疥（皮膚病）、
〔ʃiˇbur〕冬瓜、〔ʃiˇru:〕汁、〔k'waˇʃi:〕菓子、〔k'i̯ˇʃir〕キセル、
〔më:˥ʃi̯˩t'ʃi〕額、〔haˇʃi:〕おはし、〔ʔi˩k'ja:˥ʃi̯〕どうして、
〔k'u̯ˇʃi:〕櫛、〔ʔaˇʃi:〕裾（あし？）、〔hi̯ˇʃi:〕干瀬、
〔ʃi˩mï:˥na˩wa〕しめ縄、〔ˋhuʃ〕星、〔ʃiˇwas〕師走、
〔hu˩ru:ˇʃik〕風呂敷、〔k'ë:˥ʃi˩ma〕裏返し、

／ʃe／〔ˇʃen〕千、〔ˋʃe:˩hë〕咳、〔ˋʃen˩su〕扇子、

／ʃa／〔ˇʃa:〕舌、下、〔ʃa:˥suba〕下唇、〔buˋgin˩ʃa〕金持ち、
〔baˇʃa:〕芭蕉、〔ˋʃa:〕した（過去）、〔mït˥ra˩ʃa〕珍しい、
〔ʔu˩t'u:˥ru˩ʃa〕恐ろしい、〔guˇʃan〕杖、〔ˋʔju:˩ʃa〕唖、
〔ˋk'o:˩ʃa〕山芋、

／ʃo／〔ʃoˇji:〕醤油、〔k'u̯ˇʃo:〕胡椒、〔ʃo:˥gwadˋdïk〕一月、

／ʃu／〔ˋhuʃ˩ʃu〕祖父、〔maˇʃu:〕塩、〔ˋʃum〕〔ˋʃur〕する、
〔ʃuk˥t'ur〕みぞおち、〔ʔuˇʃu:〕海水、〔ha˩na:ˇʃum〕話す、
〔k'ur˥ʃum〕殺す、

／ʃ／〔ˋʔuʃ〕牛、〔k'ïˋbuʃ〕煙、〔ˋʔiʃ〕石、〔ˋʔuʃ˩rjo〕後ろ、
〔t'ïˋbuʃ〕膝、〔haˇdaʃ〕裸足、〔ˋk'uʃ〕腰、〔ˋbaʃ〕くわずいも、
〔ʔiʃˇgjak〕石垣、〔ˋduʃ〕友、〔ˋmjaʃ˩k'ï〕薪、〔ˋmiʃ˩gi〕しゃもじ、
〔saˇk'uʃ〕しゃくし、〔ʔaʃ˥dʒa˩ha〕下駄、〔ʔaˇbuʃ〕畦、
〔ˋhaʃ〕橋、〔muˇk'aʃ〕昔、〔ˋniʃ〕西、〔hiˋgjaʃ〕東、

2. 3. 7. 鼻音／n／／m／

／n／は舌先の鼻音で、／m／は両唇の鼻音である。いずれも有声音である。

2. 3. 7. 1. 前舌鼻音／n／／nj／

諸鈍方言の／n／は標準語のナ行の子音／n／に対応してあらわれる。

標準語　　諸鈍方言

／na／－／na／〔naˇha:〕中、〔naˇnat〕七つ

／ni／－／ni／〔ni:〕荷、〔niˆdʒu:〕二十

／n／〔ˇdïn〕銭、〔ˆgan〕蟹、

／nu／－／nu／〔ˆnus˩do〕盗人、〔ˆnuʃ〕主

／n／〔ˇʔin〕犬、

／ne／－／nï／〔k'aˆnï:〕金、〔huˇnï:〕骨、

／no／－／nu／〔-nu〕格助詞（標準語「の」に対応）

／no／〔ˇno:〕野、〔t'ïˇno:〕つの、

閉音節の末尾にくる／n／は上記に示したように標準語の「に」「ぬ」に対応するだけでなく、「ん」に対応してもあらわれる。

*ni > n　〔ˇdïn〕銭、〔ˆgan〕蟹、

*nu > n　〔ˇʔin〕犬、〔ˆk'in〕着物（「衣」に対応）

*N > n　〔ˆbun〕盆、〔hu̯ˆt'on〕布団、〔ˆt'in〕空、〔ˆbin˩t'a〕頬、

〔ˆk'in˩dʒo〕近所、

また、標準語の「ノ（no)」に対応して音節をとじる／n／があらわれることがある。

〔ˆnaŋ˩k'a〕七日、〔k'uˆhoŋ˩k'a〕九日、

音節をとじる／n／に前舌音（t', t', d, t'ʃ, t'ʃ, dʒ など）が後続するときは〔n〕であらわれ、奥舌音（k', k', g）が後続するときは〔ŋ〕であらわれる。語末にくるときは／n／もしくは、／N／であらわれる。

〔n〕　〔ˆhin˩dʒa〕山羊、〔ˆk'in˩dʒo〕近所、

〔ˆbin˩t'a〕頬、

〔ˆhan˩ni〕祖母、

〔t'ïnˇdar〕かたつむり

〔ŋ〕　〔ˆnaŋ˩k'a〕七日、〔k'uˆhoŋ˩k'a〕九日

〔ˋjiŋ˩˧ ga〕男、〔ˋdïŋ˩˧ gï〕デイゴ

〔n ～ N〕〔ˋʔaN〕蟻、〔ˋk'in〕蹴爪、

両唇音（p, b, m）が後続するときには〔m〕があらわれる。この〔m〕は／m／が音節をとじる位置にあらわれたものであり、標準語のように、はねる音のバリアントとしてはみとめられない。

（2. 3. 7. 2. ／m／の項参照）

／nï／　〔ʔaˋnï:〕姉、〔nïˇdïm〕鼠、〔ˋnï:〕根、〔huˇnï:〕船、
〔ˋnïk〕いびき、〔sïˇnï:〕すね、〔nïˋbu:˩˧ t'u〕ねぶと、
〔haˋnï:〕羽、〔ˋnïk˩˧ k'a〕ネギの一種、〔t'aˇnï:〕種、
〔nïˇgur〕根、〔nïˇsë:〕若い男、〔nïŋ˥˩guro〕妾、恋人、
〔ˋjo:˩˧ nï〕夜、〔nï:ˇdʒin〕ニンジン、

／në／　〔ˋnë:˩˧ so〕糸、〔ˋnë〕地震、〔ˇnëm〕無い、〔ˋnën˩˧ t'a〕無かった、
〔në:ˇgjum〕びっこを引く、

／na／　〔naˇda:〕涙、〔haˋna:〕花、〔ˋna:〕名前、〔ˋnam〕あなた、
〔naˇbï:〕鍋、〔wuˇnak〕女、〔wuˋnar〕をなり、〔naˇsïp〕ナス、
〔naˋbï:˩˧ ra〕ヘチマ、〔naˇba:〕キノコ、〔juˋna:˩˧ gï〕ユウナ、
〔maˋna:˩˧ t'ʃa〕まな板、〔t'uˋnar〕隣、〔k'aˇna:〕鉋、
〔t'ïˇna:〕網、〔ˋnat〕夏、〔ʃi˩˧ mï:˥˩na˩˧ wa〕しめ縄、

／no／　〔ˇno:〕縄、〔ˋnok〕虹、〔ˋt'ʃo:˩˧no〕手斧、〔t'ïˋno:˩˧gï〕てぬぐい、
〔ʔiˇno:〕内海、〔no˩˧ ho:ˇgir〕のこぎり、〔ˋgin˩˧no〕金槌、
〔k'u˩˧ ho:ˇnot〕九つ、

／nu／　〔haˇnus〕甘薯、〔ˋnu:〕何、〔nuˇbï:〕喉、〔ˋnuk〕横糸、
〔nuˋno:〕布、

／n／　〔ˋwan〕私、〔k'un˥˩nja˩˧ t'o〕ゴキブリ、〔ˋjiŋ˩˧ ga〕男、
〔ʔinˇsam〕みじかい、〔ˋhan˩˧ ni〕祖母、〔k'u˩˧ hoŋˇk'ër〕九回、
〔k'ï˩˧ da:ˇmun〕獣、

／ni／　〔niˋgi:〕刺、〔ʔiˇni:〕稲、〔ˋniʃ〕西、〔ni˩˧gja:˥˩ʔu˩˧ri〕にがうり、
〔ˋnin˩˧ dʒo〕仲間、〔ˋhan˩˧ ni〕祖母、

／nje／　欠

／nja／　〔ʃiˆnjam〕死なない、〔miˆnja:〕貝、〔k'un˥nja˩t'o〕ゴキブリ、
　　〔ˇnjar〕少し
／njo／　〔miˇnjo:〕蓑、〔ʔaˆnjo:〕兄、
／nju／　〔ʃiˆnjum〕死ぬ、〔k'iˆnju:〕きのう、

2. 3. 7. 2. 両唇鼻音／ m ／／ mj ／

標準語と諸鈍方言の両唇の鼻音 m の対応は以下のようである。

標準語　　諸鈍方言

／ma／－／ma／〔ˆmak〕牧、〔ʃiˇma:〕島
／mi／－／mi／〔ˆmi:〕身、〔miˇmi:〕耳、
　　／m ／〔ˆmum〕籾、〔k'aˇgam〕鏡、
／mu／－／mu／〔ˆmuʃ〕虫、〔muˆnï:〕胸、
／me／－／mï／〔ˇmï:〕目、〔t'ïˆmï:〕爪、
／mo／－／mu／〔muˇmo:〕腿、〔ˆmum〕籾
　　／mo／〔k'iˇmo:〕肝、〔k'uˇmo:〕雲

音節をとじる／m／は標準語のミに対応してあらわれる(注20)。

〔miˆnam〕南、〔ˆsïm〕隅、〔ˆk'am〕紙、
〔ʃiˇrjam〕しらみ、〔nïˇdïm〕ねずみ、
〔k'u˩mï:ˇk'am〕こめかみ、〔ʃiˇrjum〕脂身（しろみ)、
〔ʔiˇdʒum〕泉、

この音節をとじる／m／は、両唇音に先行するときにあらわれるだけでなく、前舌音（d, dʒ, n, j)、奥舌音（k', g）などに先行するときにもあらわれる。

〔k'amˇdaʃ〕かんざし、〔ˆnam˩dʒa〕銀、〔k'amˇnar〕かみなり、
〔mim˥k'utʃ˩rja〕蜂、〔nï˩dïm˥ja˩ma〕鼠取り

その他の音節をとじる／m／の例

〔gaˇdʒam〕蚊、〔ˆʃim˩bje〕カンパチ、〔ʔaˇdïm〕杵、〔guˇʃam〕杖、
〔ˆjam˩më〕庭、〔huˇhum〕埃、〔ˆʔam˩ma〕母、〔ham˥më〕飯、

／mï／ 〔k'uˇmï:〕米、〔ˋmït〕水、〔ʔaˇmï:〕雨、〔ʔiˇmï:〕夢、
〔mït˥ra˩˨ʃa〕珍しい、〔ˋmïŋ˩˨k'o〕まぶた、〔ˋmïŋ˩˨k'ï〕まつげ、
〔ˋmïp˩˨po〕盲、〔k'u˩˨mï:ˇk'am〕こめかみ、〔sï˩˨ga:ˇmït〕唾、
〔mïˇmït〕ミミズ、〔mï:ˇmun〕牝、〔k'aˇmï:〕亀、
〔ˋmïk˩˨k'wa〕姪、〔juˇmï:〕嫁、〔k'aˇmï:〕甕、
〔ʃi˩˨mï:˥na˩˨wa〕〆縄、〔ˇmï:〕孔、
／më／ 〔ˇmë:〕前、〔më:˥ʃi̥˩˨t'ʃi〕ひたい、〔më:˥ra˩˨bï〕若い娘、
〔ˋjak˩˨më〕兄、〔ˋjam˩˨më〕庭、
／ma／ 〔ˋmat˩˨gï〕松、〔ˋʔam˩˨ma〕母、〔ʔuˇma:〕馬、
〔dʒiˋma:˩˨mï〕落花生、〔k'aˇmatʃ〕頭、〔haˋga:˩˨ma〕羽釜、
〔ʔuˇmat〕火、〔maˇʃu:〕塩、〔k'aˇma:〕鎌、〔ʃiˇma:〕島、
〔ʔa˩˨ma:˥sam〕甘い、〔k'uˋma:〕ここ、〔naˇma:〕今、
〔maˇjo:〕眉、〔maˇri:〕尻、〔maˇra:〕陰茎、
〔t'u˩˨ma:˥t'o〕トマト、〔guˋma:〕ゴマ、〔gatˇmar〕ガジマル、
〔mar˥gu˩˨ho〕おむつ、〔maˇga:〕孫、〔hatʃˇmak〕鉢巻、
〔maˋna:˩˨t'ʃa〕まな板、〔sïk˥ma〕隙間、〔k'ë:˥ʃi˩˨ma〕裏返し、
〔maˋna:˩˨k'a〕便所、〔k'aˋma:〕かまど、〔maˇhar〕碗、
〔ˋmak˩˨ra〕枕、〔haˇma:〕浜、
／mo／ 〔jaˇmor〕やもり、〔ˋmo:〕藻、〔k'o:ˇmor〕コウモリ、
〔mok˥k'a〕パパイヤ、〔k'uˇmor〕窪み、〔ʃi˩˨mo:ˇt'ïk〕霜月、
／mu／ 〔muˇho:〕婿、〔muŋˇgutʃ〕門、〔ˋmut〕六つ、〔k'ï˩˨da:ˇmun〕獣、
〔muˇdʒi:〕田芋、〔ʔuˇmu:〕里芋、〔k'uˋmuk〕小麦、
〔muˇgi:〕麦、〔muˋrë:〕こじき、〔muˋje:〕模合、
〔muˋk'ë:〕向かい、〔ʔuˋmu:˩˨t'ï〕表、〔muˇra:〕村、
〔muˇk'aʃ〕昔、〔mui˥k'a〕六日、
／mi／ 〔miˇdʒo:〕溝、〔ˋmitʃ〕道、〔miˇsu:〕味噌、〔miˇt'ʃu:〕土、
〔nuˇmi:〕蚤、〔ʔuˇmi:〕海、〔ˋmik〕右、〔ˋmit〕三つ、
〔ʔuˇmi:〕膿、〔ˋmiʃ˩˨gi〕しゃもじ、〔ˋmiŋ˩˨gjo〕人形、
〔ˋmiʃ˩˨ja〕店、〔ʔaˇmi:〕網、〔guˇmi:〕ゴミ、

／mje／　欠

／mja／〔ᵛmjak〕脈、〔ᵛmja:〕猫、〔ᵏmjaʃ⌜k'ï〕薪、

／mjo／〔nu⌜mjo:ᵛram〕飲んでいない、〔ᵛmjotʃ〕名字、

／mju／〔nuᵛmjum〕飲む、〔k'aᵛmjum〕食べる、

2. 3. 8. 流音／r／

／r／は有声音で、流音（弾き音）である。諸鈍方言の〔r〕は標準語のばあいとほぼおなじように舌先と歯ぐきのつきだした部分で調音されるが、音節をとじる〔r〕は側面音〔l〕のバリアントをもつことがある。このとき舌先が歯ぐきのつきだした部分よりもうしろにずれて、舌先を硬口蓋につけたままで発音されるようである。／r／は標準語のラ行の子音に対応してあらわれる。諸鈍方言の／r／も標準語の和語のように語頭には立ちにくいフォネームである。

標準語　　諸鈍方言

／ra／－／ra／〔saᵛra:〕皿、

／ri／－／ri／〔ʔuᵛri:〕胡瓜（「瓜」に対応）

　　／r／〔ᵏt'ur〕鳥、〔hiᵛdʒar〕左、

／ru／－／ru／〔saᵛru:〕猿、〔t'aᵛru:〕樽

　　／r／〔ᵏsar〕申、〔k'i̥ᵛʃir〕煙管、

／re／－／rï／　欠

／ro／－／ru／〔ᵛru:〕櫓、〔duᵛru:〕泥、

　　／ro／〔k'uᵏho:⌜ro〕心、〔roᵏk'u:⌜dʒu〕六十

上にしめしたように音節をとじる／r／は標準語のリ、ルに対応してあらわれるが、つぎの語例のように標準語のレに対応してあらわれることがある。

〔ᵏdïr〕どれ、〔ᵏʔar〕あれ、〔ᵏk'ur〕これ、〔ᵏʔur〕それ、

〔ᵏt'ar〕だれ、〔juᵏdar〕よだれ、

音節をとじる／k／／p／／t／／tʃ／が後続する有声子音の影響（逆行同化）によって〔g〕〔b〕〔d〕〔dʒ〕に変化する（たとえば〔sag⌝ra〕桜、〔ᵏʔab⌜ra〕油など）ことについては先にのべたが、それと逆に音節をとじる

／k／／p／／t／／tʃ／の影響によって後続する音節の／r／が無声化、あるいは半有声化することがまれにある。

〔sak˥ɽa〕桜、〔ˋʔap˩ɽa〕油、〔ˋgutʃ˥ɽja〕鯨、

その他の語例

／rï／　〔ʔi˩rï:˥sak〕移住者、

／rë／　〔muˋrë:〕こじき、〔sïˋda:˩rë〕すだれ、〔juˋmak˩rë〕夕暮、
〔ji:˥gu˩rë〕酔っぱらい、

／ra／　〔ˋmak˩ra〕枕、〔maˇra:〕陰茎、〔më:˥ra˩bï〕若い娘、
〔gaˇras〕カラス、〔naˋbï:˩ra〕ヘチマ、〔sak˥ra〕桜、
〔mït˥ra˩ʃa〕珍しい、〔ˋʔab˩ra〕油、〔ˋk'ub˩ra〕ふくらはぎ、
〔ˋt'o:˩ra〕俵、〔haˋbï:˩ra〕蝶々、〔k'aˋra:〕芋の葉、
〔k'u˩da:˥ra〕小皿、〔ʔuˋra:˩t'ʃa〕壁、〔t'ïˋra:〕顔、
〔hun˥da˩ra〕大皿、〔k'aˋwa:˩ra〕瓦、〔k'uˇra:〕倉、
〔naˋha:˩ra〕半分、〔hwïˇra:〕箆、〔ʔuˇra:〕うら、

／ro／　〔ro:ˇsuk〕ろうそく、〔ropˇpjak〕六百、〔roˋk'u:˩dʒu〕六十、
〔nïŋ˥guro〕妾、〔k'uˋho:˩ro〕心、

／ru／　〔ˋrupˋrup〕犬の鳴き声、〔ˋhik˩ru〕垢、〔ʃɨ˩t'ʃu:ˇruk〕ひよめき、
〔ʃiˇru:〕汁、〔t'aˇru:〕桶（樽か）、〔rukˇnin〕六人、
〔hu˩ru:ˇʃik〕風呂敷、〔ˋhuk˩ru〕袋、〔ʔu˩t'u:˥ru˩ʃa〕恐ろしい、
〔ʔuˇru:〕珊瑚の砕けた小石、〔ʔuˋru:〕喉

／ri／　〔maˇri:〕尻、〔ˋʔip˩ri〕ものもらい、〔ni˩gja:˥ʔu˩ri〕にがうり、
〔t'aˇri:〕陰嚢、〔ʔiˇri:〕錐、

／rja／　〔ʃiˇrjam〕虱、〔ˋt'ïp˩rja〕掌、〔ˋt'ʃitʃ˩rja〕網の一種、
〔hiˇrja:〕南京虫、〔ˋgutʃ˩rja〕鯨、〔ˋk'ib˩rja〕葱
〔ʃiˋrja:˩bë〕疥（皮膚病）、〔ʔik˥rjaˇsam〕少ない、

／rjo／　〔ˋʔuʃ˩rjo〕後ろ、〔nap˥rjoˇsam〕すべっこい、〔ˋji:˩rjo〕ひも、

／rju／　〔ʃiˇrjum〕脂身、〔dʒiˋrju:〕炉（囲炉裏）、〔jiˋrjum〕坐る、
〔huˋrjum〕降る、〔ji˩hë:ˇrjum〕焼ける、〔k'iˇrjum〕切る、
〔hi˩rju:ˇsam〕広い

／r／　〔ja˅mor〕やもり、〔k'o:˅mor〕コウモリ、〔ma˅har〕碗、
〔mar˥gu˩ho〕おむつ、〔gat˅mar〕ガジマル、〔˅njar〕少し、
〔t'ïr˥gjo〕井戸、〔t'ïn˅dar〕蝸牛、〔˄ʃur〕する、〔nï˅gur〕根、
〔ʃi˅bur〕冬瓜、〔k'ɨ˅ʃir〕キセル、〔ʃi˅bar〕小便、
〔hi˅dʒur〕稲光、〔˄t'ʃur〕一人、〔gat˅mar〕ガジマル、
〔'u˄dur〕踊り、〔t'u˄nar〕隣、〔ju˄dar〕よだれ、〔k'ir˥hwë〕霧、
〔˄t'ar〕二人、〔ju˄t'ar〕四人、〔k'u˅mor〕窪み・穴、
〔k'am˅nar〕雷、〔t'a˄k'ër〕二回、〔mi˄k'ër〕三回、
〔ju˄k'ër〕四回、〔na˩na:˅k'ër〕七回、〔mu˄k'ër〕六回、
〔k'ɥ˩hoŋ˅k'ër〕九回、〔ja˄k'ër〕八回、〔t'u:˥k'ër〕十回、
〔˄ʔir˩k'i〕ふけ、〔ma˅har〕椀、〔no˩ho:˅gir〕のこぎり、
〔˅bur〕鞭、

音節をとじる位置にくる／r／は、後続する子音フォネームの影響をうけて同化（逆行同化）して、後続の子音と同じ音になることがある。

t'un˥nju　鳥が（＜˄t'ur　鳥）
ʃi˩bat˥t'ït'o　膀胱（＜ʃi˅bar　小便）

注

(1)諸鈍方言のばあい、ひびき音の喉頭化／非喉頭化の対立は半母音にかぎられているが、北奄美大島方言には鼻音にもみられる。

〔ʔma〕馬、〔ʔni〕稲（龍郷町円）

また、沖縄北部の伊江島の方言には流音にも喉頭化／非喉頭化の対立がみられる。

〔ʔra:〕あなた、〔ʔri:〕あなたたち（伊江村川平）

詳しくは生塩睦子1993を参照。

(2)沖縄本島北部の今帰仁村与那嶺方言にも喉頭／非喉頭の対立があるが、それは原則的に語頭においてのみみられるもので、語中においては、明確な複合語を除いて、喉頭化した子音のみがあらわれ、その対立が解消されるようである。仲宗根政善著『沖縄今帰仁方言辞典』（1983年角川書店）参照。

(3) *ki *ku *tʃi *tsu の子音 k, tʃ が喉頭化するのは、後続する母音 *i *u の音響管としての効率の悪さから、当該方言で全体として呼気流量が減少したとき、すくない呼気で音を響かせるために、喉頭が緊張して閉鎖され、呼気の流失をおさえる制御作用ががおこなわれたのではないかと思われる。

(4) ha˄t'o:（鳩）、k'a˅t'a:（肩）のように先行する母音が無声化していなくても、第二音節目の子音が喉頭化することがある。これは、広母音 a と無声子音、特に摩擦音 h や s、奥舌軟口蓋の破裂音kが結合する語頭の音節においてより多くの呼気が消費される傾向があり、③のばあいに似た条件が形成されるために、第二音節目の破裂音が喉頭化するのであろう。

(5)〔s:ʃ〕〔t:tʃ〕をのぞく子音フォネームの口蓋音化／非口蓋音化の対立も中和される。

˄juk	雪	ju˄k'im	雪も
˄hwak	箱	hwa˄k'um	箱も
˄k'uk	釘	k'u˄gim	釘も

(6) sag˥ra の g は *ku に対応するから、˄hig˩ru, ˄ʔab˩ra の有声音 g, b がふるい形を保存しているのではなく，後続の有声子音（流音）の影響で有声音化したものとみるべきである。

(7)諸鈍方言に無声化した母音が存在しないわけではない。母音の無声化については前号14頁参照。

(8)筆者が1993年９月に調査した鹿児島県揖宿郡穎娃町の方言も、閉音節構造の単語を多く有する方言であるが、穎娃方言の閉音節をつくる子音のうち、破裂音は喉頭化する傾向がつよく、〔k'〕〔t'〕であらわれる。これらの音節をとじる破裂音は外破がすくなく、気音があまり聞かれない。諸鈍方言で区別される音節をとじる〔tʃ〕〔ts〕〔t〕〔p〕が穎娃方言ではすべて〔t'〕に統一され、音節をとじる〔k'〕との区別をのこすのみと

なっている。以上のほかに音節をとじる子音には摩擦音〔s〕〔ʃ〕、鼻音〔N〕がある。諸鈍方言の音節をとじる／r／に対応しては規則的に〔i〕があらわれる。

〔ˆkut'〕口、〔ˆit'〕指、〔ˆmjak'〕脈、〔ˆuʃ〕牛、〔ˆus〕臼、〔jaN〕山羊、〔ˆtoi〕鳥

(9)前舌狭母音 i と結合する口蓋音化した子音フォネームも、他の口蓋音化した子音フォネームと同様に／bji／と表記すべきであろうが、これまでの慣例にしたがって／bi／と表記する。

(10)「拗音節、たとえば、kja という音節を 3 個のフォネームの連続とみなすことは困難であろう。それは、調音的にみたばあい、拗音節における口蓋音化という要素は、子音フォネームの他の要素と同時的であるからである。口蓋音化は子音の持続部のはじめにおいて完成しているし、母音の持続部へむかっていく子音のでわたりの部分は同時に口蓋音化が解消されていく過程であるからである。拗音節の発音において、口蓋音化している子音の持続部から母音の持続部へのわたりの運動は規範的な発音にあっても誇張された発音にあっても直線的であって、口蓋音化のための調音的なみねが子音の持続部よりもおくれておこることはない。このことは標準語、および拗音節をもっているほとんどの方言における拗音節の調音の特徴をなしている。」以上の上村幸雄1978の定義は、そのまま諸鈍方言の口蓋音化した子音フォネームを含む音節（拗音節）、唇音化した子音フォネームを含む音節（合拗音節）のばあいにもあてはまるものである。

(11)この拗音節と直音節の関係は子音の口蓋音化の有り無しだけでなく、母音の音色もことなっている。〔gï:gi〕〔sï:ʃi〕〔gë:ge〕〔së:ʃe〕は子音の違いだけでなく、母音も前舌母音であるか、中舌母音であるかという違いも含まれている。他のばあい、たとえば、標準語の〔ga:gja〕〔sa:ʃa〕でも子音が口蓋音化していることにともない、母音を発音するときの口の開き方に微妙なちがいを生じていることが上村幸雄1978に指摘されている。

(12)奄美大島諸方言は、全体として古代ハ行子音の *p の摩擦音化が進行しているが、奄美大島北端の笠利町佐仁（さに）の方言は奄美大島諸方言のなかで *p を保存する唯一の方言で、まわりの方言と大きくことなり（その他の特徴にも違いがみられる）、「言語の島」となっている。（用例は『琉球列島諸方言の基礎語彙の言語地理学的研究』所収。笠利町佐仁の調査担当者・上村幸雄）

〔p'a〕歯、〔p'aˆbïra〕蝶、〔p'u〕帆、

〔p'uˆnï〕船、〔p'ï〕屁、

また、佐仁では語頭の *k が h に変化している。

〔xï〕木、〔huï〕米、〔huï:〕今日、〔ho〕皮

(13)この単語のばあい子音の口蓋音化の程度は他の口蓋音化した子音フォネームと比較した

ばあい、口蓋音化の程度は顕著ではなく、口蓋音化しない子音フォネームにかなり近いが、母音は前舌半広母音 e である。前舌硬口蓋の子音 t', t', d, n が中舌母音 ïë と結合したばあい、その母音の音色は i や e に似てくるが、両唇音 p, b, m, 奥舌軟口蓋音 k', k', g と中舌母音 ï, ë が結合したばあいは、その中舌性は顕著である。このことからかんがえると、〔ˆpen〕の p は口蓋音化した子音のグループに分類すべきものとおもわれる。ʃe, t'ʃe, t'ʃe, dʒe を除く、他の子音と前舌狭母音 e と口蓋音化した子音フォネームとが結合してつくる音節（拗音節）のばあいも他の拗音節とくらべると、口蓋音化の程度は小さいようである。

(14) ʔap˥pjum（遊ぶ）には ʔas˥bjum というかわり語形がある。このかわり語形はていねいなゆっくりした発音のときにあらわれる。第一音節目の〔ʔas〕は *aso に遡るのではなく、閉音節化していることから *asu にさかのぼるものとおもわれる。他の多くの琉球諸方言の「遊ぶ」に対応する形についても同様である。

(15) 諸鈍方言の破擦音の破裂音化は、*tʃ, *dʒ のような口蓋音化した破擦音にはおこっておらず、*ts, *dz のような口蓋音化していない破擦音におこったようである。

上村幸雄1989によると *ts > t, *dz > d のような破擦音の破裂音化は呼気の弱まりによって生じるようである。

(16) 沖縄本島北部方言、与論方言、沖永良部方言、喜界島方言などでは語頭の *k が h に変化するが、諸鈍方言（他の奄美大島の諸方言も含めて）では *k > h の変化は語中にのみ見られる現象である。

	皮	米	木
和泊町国頭	ˇho:	huˇmi:	ˇhwi:
知名町久志検	ˇho:	huˇmi:	ˇhi:
与論町城	ˆho:	mai	ˆhi:
国頭村辺野喜	ˇha:	hu˥mi	ˇhi:
大宜味村大宜味村	ˇha:	hu˥mi	ˇhi:

(17) 首里方言をはじめとする沖縄中南部方言の多くは口蓋音化した奥舌軟口蓋の破裂音 *kj, *gj が破擦音化して tʃ, dʒ に変化しているが、諸鈍方言にはこの破擦音化がみられない。

〔tʃu:〕今日、〔tʃo:de:〕兄弟、〔ʔitʃun〕行く

〔nindʒo:〕人形、〔kudʒun〕濟ぐ（首里方言）

(18) 北琉球方言の下位方言のなかには、この喉頭破裂音が音声としては存在しても音韻論的な単位としてはみとめられない方言もある。しかし、かつては存在していたことが容易に推定できるものである。糸満市糸満を中心にする沖縄本島南部の西側の地域、久米島、座間味村阿嘉・慶留間、伊平屋島、伊是名島、沖縄本島北部の塩屋湾以北の地域、

久高島の方言などがそういう方言である。

(19)奄美大島北部方言（笠利町、龍郷町、名瀬市、住用村、大和村、宇検村）ではこの *k から変化した／h／がさらに消失してしまう。

〔së:〕酒、〔dë:〕竹、〔t'o:〕蛸、〔na:〕中、

〔ji:ri〕ゑけり（男兄弟）、〔wï:〕桶、

(20)首里方言をはじめとする沖縄本島中南部、沖縄本島北部の諸方言では第一音節目の mi, mu の母音が消失してはねる音が語頭にくることがあるが、諸鈍方言の mi, mu は第二音節目以降にくるばあいにのみ音節をとじる／m／になるようである。

		首里	諸鈍	
*mino	>	'ɴnu	miˆnjo:	裳
*midzo	>	'ɴdʒu	miˆnjo:	滸
*mune	>	'ɴni	miˆnjo:	胸
*mukaʃi	>	'ɴkaʃi	muˆk'aʃ	昔

【参考文献】

上村幸雄1995「琉球語方言学から一般言語学へ－日本列島の南と北の言語学：アイヌ語と琉球語－」（『言語研究』第107号）

上村幸雄1995「音声研究と琉球方言学」（『沖縄言語研究センター資料No.119』）

上村幸雄1990『日本語の母音，子音，音節－調音運動の実験音声学的研究－』国立国語研究所報告100）

上村幸雄1978『X線映画資料による母音の発音の研究－フォネーム研究序説－』国立国語研究所報告60）

沖縄言語研究センター1986「琉球列島諸方言の基礎語彙の言語地理学的研究」（『沖縄言語研究センター資料No.86』）

沖縄言語研究センター1986「奄美諸島方言の基礎語彙の言語地理学的研究」

生塩睦子1994『伊江島のはなしことば』

かりまたしげひさ1995「島々のことば－琉球方言概説」（『アジアの中の沖縄－文化をたずねて－』

狩俣繁久1995「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム（上）（『日本東洋文化論集』創刊号　琉球大学法文学部紀要）

国立国語研究所1963『沖縄語辞典』

服部四郎1951『音声学』

※参考文献は前号「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム（上）」にあげたもの以外のものをここに記す。

	唇音化した系列			唇音化も口蓋音化もしない系列				
	ʔwï	ʔwë	ʔwa	ʔu	ʔo	ʔa	—	—
	wï	wë	wa	wu	wo	—	—	—
hwi	hwï	hwë	hwa	hu	ho	ha	hë	hï
	k'wï	k'wë	k'wa	k'u	k'o	k'a	k'ë	k'ï
	k‘wï	k'wë	k'wa	k‘u	k‘o	k‘a	k‘ë	k‘ï
	gwï	gwë	gwa	gu	go	ga	gë	gï
				t'u	t'o	t'a	t'ë	t'ï
				t‘u	t‘o	t‘a	t‘ë	t'ï
				du	dod	da	dë	dï
				su	so	sa	së	sï
				nu	no	na	në	nï
				ru	ro	ra	rë	rï
				pu	po	pa	pë	pï
				bu	bo	ba	bë	bï
				mu	mo	ma	më	mï

口蓋音化した系列

ʔi	ʔje	ʔja	ʔjo	ʔju
ji	je	ja	jo	ju
hi	(hje)	hja	hjo	hju
k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju
k'i	(k'je)	k'ja	k'jo	k'ju
gi	(gje)	gja	gjo	gju
t'ʃi	(t'ʃe)	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu
t'ʃi	(t'ʃe)	t'ʃa	t'ʃo	t'ʃu
dʒi	(dʒe)	dʒa	dʒo	dʒu
ʃi	(ʃe)	ʃa	ʃo	ʃu
ni	(nje)	nja	njo	nju
ri	(rje)	rja	rjo	rju
pi	(pje)	pja	pjo	pju
bi	(bje)	bja	bjo	bju
mi	(mje)	mja	mjo	mju